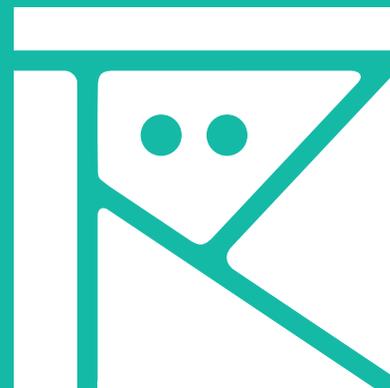


名城大学



巻頭特集

CBML

Community Based Machizukuri Learning

学びを深める専門講義

Shake で

卒業生の今

名城生だから知っておきたい！ 矢田 MAP

名城大学 都市情報学部

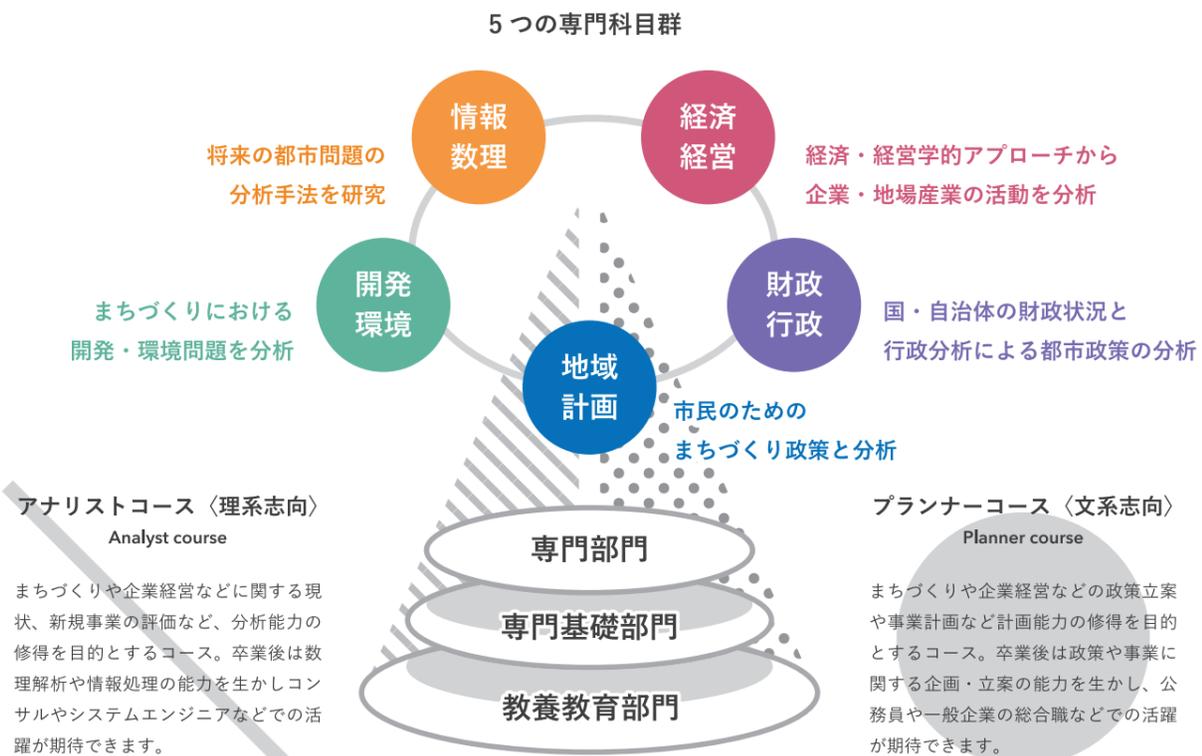
学部の窓

No.25 | 2020



暮らすひとの笑顔のために 「都市 × 情報」を科学する

名城大学都市情報学部は、人が住みやすい新しい都市像を創造し、
情報化社会に役立つ人材を育成する全国唯一の学部です。
現在の都市が抱える諸問題を総合的に解決するための
視野と知識の修得をめざして幅広い教育を実践しています。



1・2年次

“都市情報学”とは何か
その概念を知る

一口に“都市情報学”と言っても、その学問領域は広く、文系・理系の枠に留まりません。そこで、1年次に『都市情報学概論Ⅰ・Ⅱ』を開講し、今後4年間の学びや研究のテーマを紹介していきます。授業は都市情報学部の全教員がオムニバス形式で担当。都市情報学部の学びの広さに触れることができ、都市問題に対する関心を引き出します。

情報処理の
基礎的能力を修得

1・2年次に履修するコンピューター演習科目は、少人数制できめ細かく指導。演習を通して、必要な基礎知識や技能、OS (Windows・Linux) の操作方法や、コンピューター言語 (VB・C言語)などを学び、高度情報社会で活躍できるスキルを身に付けます。

3・4年次

新しい都市の創造をめざし、5つの専門科目群を設置。
少人数ゼミナールにて問題発見・解決能力を育てる

主に3年次では進路志望に沿って各科目群の科目を横断的に学習します。ゼミナールは1ゼミナール当たり8人前後の徹底した少人数教育で行います。3・4年次の2年間にわたり、対話や討論、実習、調査等を通じて問題の分析および解決の能力を養い、発表等の技術を身に付けます。各自の研究テーマは卒業論文としてまとめ、発表します。



「窓」が、つないでくれるもの。

暖かい陽の光がそそぎ込む。
爽やかな風が吹き抜ける。
窓のむこうに、知らなかった景色を見つける。

こちら側とむこう側をつなぐ「窓」が
今見えている世界を広げてくれる。

2020年4月に迎える
学部開設25周年に向けて
「学部の窓」は大きくリニューアルします。

都市情報学部の「窓」からみえる
未来は、どんな色に見えていますか。

CBML

Community Based Machizukuri Learning

都市情報学部の学びを、
もっと主体的に、実践的に。

海道 清信 教授

CBML は「Community Based Machizukuri Learning」の頭文字からそう呼んでいます。今回、岐阜県美濃加茂市の協力のもと、実際の自治体をフィールドに「グッドシティ（住みやすさ・暮らしの価値とは?）」を考える機会をいただきました。美濃加茂市の様々な課題を掘り起こしてその解決方法を考えることで、若い世代が魅力的だと考える“みのかもライフ”を、半年間をかけて、主体的・実践的にたくさん見つけてくれたと思っています。

文理融合型の都市情報学部は学習分野がとても広く、様々な知識や経験を得ることができる反面、学んだことを活かす方法や、興味のある分野を見つけること、それらを深く学ぼうとする動機付けがなかなか難しい面もあると思います。授業だけでなく、現場で実際の課題にぶつかっていく経験をする中で、今後の学びの原動力を見つけて欲しいと思い、こうした実践的なプログラムを企画しました。地域の課題を掘り起こして解決方法を提案するという、とても貴重な機会となりました。

今回は90人を超える大勢の学生が意欲的に参加してくれました。課題を理解し、分析して、自分たちなりに考え、意欲的に動きながら、最終的に現場である美濃加茂市へ提案するところまで持っていくというのはとても大変なことですが、どのチームも1・2年生とは思えないほどレベルの高いものになったと思います。今回、伊藤市長をはじめ、美濃加茂市役所の皆さんには大変お世話になりました。現場の方々にとっても、ただアウトプットして提案を“受ける”だけでなく、学生らと一緒に“取り組む”ことで、きっとまた違った視点を発見する機会になったのではないかと考えています。



CBML 2019 年度の取り組み

5/31
第1回

ガイダンス

- ・趣旨・テーマ説明および美濃加茂市の紹介
- ・ミニワーク「美濃加茂市の若手職員を囲んでの質疑応答」
- ・考えてみたいテーマと個人目標の設定、発表

6/6
第2回

フィールドワーク準備

- ・グループでの共同作業
- ・ミニレクチャー1「まちを知る見方や調べ方」
- ・ミニレクチャー2「データでみる美濃加茂市」
- ・グループワーク「フィールドワーク実施計画ワークシート」

6/15
第3回

フィールドワーク @ 美濃加茂市

市が進めるプロジェクトを巡り、各プロジェクトのキーマンからレクチャーを受けました。その後、グループワークを行い、地図上に魅力・強み（プラス）／問題点・弱み（マイナス）／その他（改善提案など）の3つの視点をプロットしました。

6/20
第4回

フィールドワーク振り返り & 住みやすさの分析

- ・グループワーク1「フィールドワークのふりかえり」
- ・ミニレクチャー「美濃加茂市の生活環境と都市構造」
- ・個人ワーク「美濃加茂市の住みやすさを各自の出身地と比較」
- ・グループワーク2「美濃加茂市の住みやすさ」

7/4,11
第5,6回

ミニ講義「住みやすさとは」

「住みやすさとは？良いまちとは？」について、都市情報学部の6名の教授の講義を受けて、様々な角度からその魅力や価値を分析・評価するための、専門的な視点や解析手法を学びました。

8/1
第7回

1DAY ワークショップ

市の担当者名から10の課題について、熱のこもったプレゼンを受けました。チーム分けを行い、チーム毎に担当者との質疑応答、現段階での目標設定と作業計画の検討を行いました。

9/22-23
第8回

フィールドワーク & 中間発表 @ 美濃加茂市

各グループが課題解決に向けて事前調査を行い、現地でのアンケート、インタビュー、施設視察・体験など様々な調査を実施しました。中間発表会では、これまでの調査報告と課題解決に向けて提案骨子を発表しました。

10/24
第9回

学内発表会

10グループが各々の課題に対する提案をまとめたスライドなどを用いてプレゼンを行いました。

11/14
第10回

地元発表会 @ 美濃加茂市生涯学習センター

高橋副市長をはじめ、市の職員や市議会議員、市民の方々等63名にお越しいただき、名城大学CBMLチームの学生に加え、教職員関係者10名が参加しました。総勢約130名と、報道機関2社を前にしての発表となりました。



有志による学生が参加！



ゲストに市職員さんをお迎え！

オープニングセレモニーにて伊藤市長と鎌田学科長



GROUPWORK

かわまち体験



@ リバーポートパーク

さとやま体験



@ みのかも健康の森

まちなか体験



@ 中山道太田宿

LECTURE



ふせんを使って意見をグルーピング



INPUT



INTERVIEW



FIELDWORK



現地の意見を収集

1 あい愛バスの利用を高める手法



実際にあるまちの問題に取り組めたということはとても良い経験になりました。こうして同じ志を持ったメンバーに出会うことができたのも大きな財産です。

美濃加茂市のコミュニティバス「あい愛バス」の現状を分析・調査。市民への認知を広げる第一歩として、バスに乗る習慣のない小学生をターゲットに「お絵描きバス」を提案した。真っ白なラッピングバスを用意し、そこに自由に絵を描くことで、子どもたちにとってバスが身近な存在になることを目指す。

地域振興課 地域政策係 係長 村井 泰史 さん

子どもたちに愛着を持ってもらうことは、我々にとっても重要な課題でした。若い力で導いてくれた提案を、ぜひ採用できるようがんばりたいと思います。



2 里山整備とみのかも健康の森に若者のアイデアとパワーを



皆でたくさん話し合っ、最終的にひとつの案にまとまって良かったです。市職員の方と直接関わり合いながら活動できたのは、いい経験になりました。

「みのかも健康の森」に10～20代の若者を呼び込むため、イベント開催を提案。テントやギアの貸し出しも含めてキャンプ場として提供するほか、天体観測や花火、木工体験や昆虫採集といったアクティビティを企画・開催する。それらを、若い世代に親和性の高いSNSにより広報することで、知名度向上を図る。

農林課 里山再生係 係長 山田 夕紀 さん

健康の森のいいところをたくさん見つけてもらえました。SNSを活用して宣伝していきたいです。私自身も学生たちにたくさんパワーをいただきました！



3 リバーポートパークの「これから」について



課題を自ら探しにいて、その解決方法を考えるのは、難しさもやりがいもありました。行政の方や地域の方の生の声を聞いたのがとても良い機会でした。

2018年に誕生したばかりの「リバーポートパーク」の来場者増加を目指し、ファミリー層に焦点を当てた3つの施策を提案。まず、自然の中で自由な発想で遊べる場を確保する。次に、日陰を確保し、くつろげる芝生広場にするため象徴的な建物を設置する。最後に冬期ならではのイベントを企画し、発信する。

土木課 建設係 係長 大塚 雅之 さん

リバーポートパークという場所を、学生たちの感性で見て、体で感じてもらった結果、ここの自然や景観を活かした提案をしてもらったのが嬉しかったです。



4 美濃加茂市「セールスシート」への追加情報とメディア取材用モデルコースを考えよう



美濃加茂市の魅力を広報するために、新しいものを探すと大変さを感じました。既存のものをどう新しく見せるか？という視点を実践的に学ぶことができました。

20～30代前半をターゲットに、モデルコースを考案した。公園隣の秘湯を紹介する「ぎふ清流里山公園」、最強パワースポットとしての「古井の天狗山」、こたつでのBBQを紹介する「リバーポートパーク」の3スポット。新しいものを発見するのではなく「新しい観点を見つける」ことの重要性についても発表。

秘書広報課 広報係 渡邊 峻哉 さん

目の前にあるものを、視点を変えて編集する大切さや面白さに気づいてもらえて良かったです。今回のモデルコースも、メディアに提案していきたいです。



5 「まちじゅう図書館」の文化を根付かせるには



実際にまちじゅう図書館に行き、いろいろな話を聞いたり考えたりすることで出たアイデアもたくさんあり、フィールドワークの大切さを実感できました。

飲食店や公園、公共施設などに、自由に読める本棚が置いてある「まちじゅう図書館」。その利用促進をテーマに、ブックスポットの調査やアンケート、管理者へのヒアリングを実施。SNSなどを活用した認知度の向上と、ブックスポットをまとめたマップを作成することによる「場所の見える化」を提案。

生涯学習課 東図書館 館長 高井 美智子 さん

ターゲットを本好きな人に絞り、SNSを使って魅力的にPRするなど、若い人の感性でいろいろな提案をしていただけて、今後の発信方法の参考になりました。



7 大学生が考える「高齢者との地域づくり」



難しいテーマでしたが、チーム一丸となって取り組み、対話を重ねることでひとつのゴールにたどり着けて良かったです。協調性が身についたと思います。

子どもから高齢者まで、幅広い世代が交流できるまちを目指し、高齢者同士のコミュニティやまちづくりの現状を、各地区に訪ねることで調査。高齢者が中心となって主催するマルシェの開催を提案した。各地区の魅力をたくさんの人に伝える手段として、また幅広い世代が交流できる場としてのマルシェを目指す。

高齢福祉課 地域包括ケア推進係 主任 本多 友美子 さん

新しい視点の意見がたくさん出てきて、こちらも勉強になりました。まちのことでなく、主役となる高齢者の気持ちを考え抜いた提案だったと思います。



6 地域生活において日本人と外国人が互いに助け合うには



今回のフィールドワークを通して、多文化共生に対する価値観が変わりました。実際の課題の解決に取り組むことで、行政の仕事にも興味が高まりました。

多文化共生の地域づくりをテーマに、今回は「災害時の助け合い」に着目。臨時避難訓練と避難生活体験を行うことで、災害に備える。さらにコミュニケーションを図るために、防災運動会とBBQを企画するという案も。様々な対応ができる行政の体制を確立し、「多文化共生のシンボルとなる街」を目指す。

地域振興課 多文化共生係 係長 大下 泰範 さん

「外国人を支援する」だけではなく、言葉の壁はありながら「同じ市民」としてどう捉えていくかという点においても、いい提案をいただけたと思います。



8 美濃加茂市が移住先として選ばれるまちになるには何が必要か



実際の課題について皆で考えるという、貴重な経験になりました。市役所の方も、私たちの意見に対して好意的な反応をくださって、自信につながりました。

移住者へのインタビューを通して「移居前」「移住後」のそれぞれに必要なアプローチを提案。移住イベント等を通して市の魅力をPRし、移住前の不安を払拭したり、移住サイトの情報を増やしたりというアプローチに加えて、移住後に住民と繋がる場づくり、関係性をつくる機会を積極的に設けるアイデア。

まちづくり課 まちづくり係 主任 高木 怜 さん

「住民同士の関係性が大切」という点は、私も再認識するきっかけになりました。今回の活動が地方の魅力や面白さを再発見するきっかけになれば嬉しいです。



「住みやすさとは」 鎌田 繁則 教授

「住みやすさ」とは主観的判断であり、どのまちが「良いまち」なのか一律には決められない。居住する経験を通じて、まちの持つストーリーとその人の持つ世界性の相性が合えば「住みやすい」と感じられるのではない。「良いまち」の評価基準は長く住めること（経験ができること）、道具関係が見つかることである、と説明されました。

「地域生活圏の住みよさの評価」 大野 栄治 教授

住みよさの概念として、WHO提示の「人間の基本的な生活要求」としての安全性・保健性・効率性・快適性の4理念に加えて、「環境と開発に関する世界委員会」提唱の持続可能性を加えた5つの基本理念とその指標を紹介。「住環境の価値を土地価格で測る」という観点から、「住みよい」=「住みたい人が多く」「土地価格が高い」となる仕組みを説明されました。

「まちづくりと農村計画 2つの問題提起」 小池 聡 教授

一見すると人口増にみえる美濃加茂市でも山間部の3学区では人口減であることを指摘。まちづくりを考える上で地域内格差をどう考えるか、民俗学・地理学・建築学等複数の観点から「むら」の定義を紹介し、むらの持続可能性をまちづくりでどう活かすか、の2つの問題提起をされました。

「Livable City」 福島 茂 教授

環境の評価は「客観評価」と「主観評価」があること、「欲求の5段階説」から考えると人は段階を踏みより充実した住みよさを求めること。「Livable City」とは、「地域固有の環境のもとで、人間らしく、自分らしく、生き生きと暮らせるまち」であると定義づけ、都市計画における5段階のまちづくりアプローチを説明された。

「住みよさ、良いまち ～音の視点から～」 西野 隆典 教授

住みよさは「静かな環境」であることが大前提だと考えられます。この「静かさ」は、全くの無音環境を求めるのは困難に近い。川の水音や鳥の鳴き声等、「心地良い音」だけを求めた場合、人里離れた場所が該当するが、不便さは否めないことから、「よいまち」とは「他者の存在が感じられる音」や「自然の音」、それらが「程よく調和」する場所と定義づけられる。

「住みよいまちとは？ 数理モデルの観点から」 鈴木 淳生 教授

施設環境問題を数理的なアプローチで導き出す方法を「美濃加茂市に市役所を新設するとしたらどこ？」と仮定して紹介。実際には、数理モデルで決定するわけではなく、求めた配置場所の地価や土地利用条件、該当施設の機能、既設の公共施設とのバランス、各地区の居住人数など、様々な条件で設置場所を検討していると説明されました。

9 「FAAVO 美濃國」を使って 中山道太田宿でできることを考えよう！



地域の方々と関わったことで、良い提案にしたいという原動力になりました。クラウドファンディングで共感を得て実現するという難しさを実感しました。

外国人観光客をターゲットとしたイベント案を提案。流しそうめんや蜂屋柿づくり体験、燈籠流し、和文化体験、お酒体験会、ハーバリウム体験などを、太田宿で行い、集客につなげる。民家を民泊としても機能させるため、クラウドファンディングで資金を調達し、耐震工事などに充てることで景観を守る。

産業振興課 営業戦略係 係長 **山田 智也** さん

クラウドファンディングを活用する難しい課題でしたが、市の観光資源をしっかり捉えて、学生ならではの柔軟な発想で提案をしてもらえて良かったです。



10 美濃加茂健康軸（リバーポートパーク美濃加茂・ぎふ清流里山公園・みのかも健康の森）を活用する健康増進施策



来園数の増加だけでなく「市民の健康」を軸にすることを大切にしました。実際に公園を訪れて、来園者の声を聞くことで、視野が広がったと思います。

ぎふ清流里山公園（旧 日本昭和村）でアンケートを実施。市民の健康増進を目的に、継続して来園してもらえるよう、ウォーキングコースの設置を提案した。継続来園を促すため、スタンプカードを作り、溜まると割引券・クーポン券に交換することで来園動機につなげる。今後の発展としてアプリ制作案も。

経営企画部 対策監 **渡邊 久登** さん

美濃加茂市のことを熱心に考えられる学生ばかりでした。若い感性で様々な意見を出してくれて、とても新鮮でしたし、新しい発見もたくさんありました。



CBMLを振り返って

今回は約90人という大規模な大学連携で、多少不安もありましたが、結果的に学生らのパワーにたくさんの刺激をもらった、有意義な半年間だったと思います。当初はまちづくりのプロである職員が、学生たちにレクチャーをするような形になるのかと想像していましたが、プロジェクトが進んでいくうちに、彼らの行動力やアイデア、フレッシュな発想力に、職員の方が学ばせてもらっているような、そんな良い関係性が築けていると感じました。今後も美濃加茂市に限らず、自分の故郷や思い入れのある地域について知り、そこで自分がどう役に立てるかを考えるきっかけをつかんでいって欲しいですね。そういった若い力が輝くことが、本当の意味でのまちづくりにつながると思っています。

美濃加茂市役所 経営企画部 企画課 課長 **斎木 竜介** さん

プログラム1年目ということもあり、試行錯誤しながらの実施となりましたが、各回の学生たちが自ら考え、ディスカッションやフィールドワーク、発表の時に、学生がとても充実した表情で取り組んでいる姿を見た時は、やってよかったなと思いました。また、学生たちが市職員や色々な方に積極的に質問などを行っている様子から、学生の意欲を感じることもできました。

このCBMLは2020年も実施します！去年の反省を踏まえて、より良いカタチで実施したいと思っています。その分ハードになるかもしれませんが、一歩踏み出せば、より充実した学生生活になると考えております。

名城大学 都市情報学部 事務室 **大橋 洋之** さん

市長のメッセージ



美濃加茂市 市長 **伊藤 誠一** さん

10チームの提案はどれもとても素晴らしく、想像以上のクオリティにとても驚きました。学生さんと担当職員が「ワンチーム」となって考えてくれた半年間。職員にとっても、とても刺激的だったと思います。今回の提案を、市として何らかの形で実現していけたら、市民にとって美濃加茂市に住む誇りに繋がると感じます。大学が地域と連携することで、双方が得るものはたくさんあります。美濃加茂市としても、名城大学と今後も一緒に何か面白いことを続けていきたいですね。今後も、お互いに刺激しあえる存在になれば、とても嬉しいです。

【美濃加茂市について】

美濃加茂市は、岐阜県の中南部にある、人口約57,000人のまちです。木曾川と飛騨川の合流点に位置し、昔から水陸交通の要所で個性的な歴史・文化が根付いています。なかでも、中山道51番目の宿場「太田宿」のあるまちとして知られており、現在も古い街並みなどが残り、宿場情緒を楽しみながら散策ができます。市では木曾川の利活用として、かわとまちを結びつけた事業として「リバーポートパーク」を整備し、多くの利用者で賑わっています。また、平地から緑深い山奥にわたって豊かな自然に囲まれ、そこで数多くの自然体験スポットがある魅力的なまちでもあります。

学びを深める専門講義

現代都市が抱える問題を解決する「都市情報学」。数多くの専門講義の中から6講義をピックアップし、講義内容や学びを深めるヒントについて紹介します。

都市と社会

地理的視点から見る都市社会

杉浦 真一郎 教授

都市と社会保障

社会保障に重要な“ストーリー”

鎌田 繁則 教授

交通の計画

人がつくり、人が動かす交通

若林 拓 教授

都市と事業構想

都市開発を提案できる思考力と創造力を

福島 茂 教授

情報と応用解析

数学の理論を実社会で活かす

山谷 克 教授

知識と情報処理

人工知能の仕組みと活用方法を学ぶ

亀井 栄治 教授



地理的視点からみる 都市社会

杉浦 真一郎 教授

Prof. Sugiura Shinichiro

都市と社会

3年前期/選択科目・専門部門（経済・経営科目群）

地域ごとの環境の多様性を知る

—「都市と社会」の講義では、どんなことが学べますか？

「都市と社会」の講義は、現代日本を取り巻く人口変動（少子高齢化・人口減少）や財政危機の下で、様々な公共サービスに量的質的な地域差がみられる現状を把握していくところから始めます。私は地理学が専門なので、「**地理学の立場から都市や社会をみると、こんな見方がありますよ**」ということ、様々な事例を元に説明しています。地域差を自治体レベル、あるいはよりミクロなスケールで理解することで、その地域に立地する諸施設によって生じる外部性が、私たちの居住環境に大きな影響をもたらしていることに気づき、考える契機としてもらえたらと思っています。

「どこで暮らすか？」を考える種に

—具体的な授業内容について教えてください。

講義では、様々な都市や地域における社会のありようを地域差や地域的な特徴といった地理的視点から理解することを目指し、いろいろなテーマから都市社会の実態を見ていきます。例

えば、医療・福祉の制度、乳幼児医療費助成、就学援助制度、学校区の特性と選択制、選挙区制度、軍事・公営競技・原子力施設、刑務所・少年鑑別所、更生保護施設等、各地域の医療・福祉・教育・司法・労働などの諸分野に関して、最新の制度や情勢を織り交ぜながら、現代の都市で起きている出来事や問題への関心を深めてもらっています。これらには、身近な話題からそうでないテーマまで含まれますが、**新聞記事や統計データも授業で紹介し、学生にはその問題を“自分ごと”として捉えるように促しています。**都市や地域の様々な特徴を理解しようとする姿勢を身につければ、将来、自分らしく暮らしやすい居住地を選ぶ上で役に立つのではないかと考えています。

—都市情報学部で、学んでほしいことは？

4年間の学習全体を通して、数多くの必修科目を中心に、情報スキルをきちんと身に付けた上で、**都市や地域をみる目を持った人材**になってもらいたいと思っています。また、授業以外にも、日頃から新聞をパラパラとめくる習慣を持って、「社会で何が起きているのか？」「今、何が問題となっているのか？」など、基本的な情報をキャッチできるようにアンテナを張ってほしいですね。それだけで、日々の生活で聞こえてくる様々なニュースや情報が、さらに身近に感じられるようになると思います。

社会保障に重要な “ストーリー”

鎌田 繁則 教授

Prof. Kamata Shigenori

都市と社会保障

3年前期/選択科目・専門部門（財政・行政科目群）

社会保障の意味と仕組みを学ぶ

—「都市と社会保障」は、どんな講義ですか？

私たちの生活を守ってくれる社会保障制度。社会保障制度とは、社会保険や社会福祉など複雑な制度の集合体です。この講義では、制度の内容や仕組みを知ること大切ですが、それらの暗記は最小限に留め、「なぜこのような仕組みになっているのか」「どんな理由でこの制度が存在しているのか」といった**社会保障の考え方を学んでほしい**と考えています。「なぜ国がこの制度を設けているのか？」「何が必要で何が必要でないのか」を、社会保障の歴史や、これまでの制度の成功例・失敗例を紹介する中で知り深めることのできる講義にしたいですね。

—学生が興味を持っているのはどんな点ですか？

一部の社会保障制度は、メディアでもよく取り上げられています。マスコミの力は強いですが、学生の中には「社会保障はかわいそうな人たちのためのもの」といった先入観を持つ者もいますし、「年金制度は破綻するの？」「将来、損するって本当？」という声も耳にします。講義の中では、そういった偏った考えや誤解を解きつつ、フラットな視点でいろいろな制度やその仕組みについて説明するようにしています。

人々の安心を、ストーリーで共感

—社会保障制度を学ぶにあたって、大切なことは？

働き方や生き方が多様化していく現代において、昔のようにひとつの制度だけで多くの人をカバーすることが困難になってきています。私が大切にしているのは、その人それぞれの「ストーリー」。実は、ごくありふれた普通の人の共感を得るということはとても難しく、これまでの学問が苦手としてきたことです。社会保障が扱う「人々の安心」というテーマは、そうした客観性では分析できません。大切なことは、**それぞれのストーリーに共感してもらうこと**。現在私は現象学という哲学の一分野と既存の経済学を組み合わせた学問の構築を目指し、人々の主観の役割を重視した社会保障改革の方法を模索しています。

—学生には、どのような学生生活を過ごしてほしいですか？

どんなことでも良いので、**学生のうちに多くの体験を積んでほしい**です。スマホひとつで経験した気分になってしまう世の中ですが、興味があることにはどんどん挑戦し、実体験を積み重ねることが、未来の自分の厚みになると思います。経験してみないと、好きなことも嫌いなこともわかりません。ぜひ自分の経験の引き出しを増やして、興味を深めてほしいと願っています。

杉浦先生の必需品

must have!

調査後はすぐにメモをデジタル化

調査のための出張先には必ずノートPCを持参し、聞き取り後にメモの内容をすぐにデジタル化。「記憶力には限りがあるので、できる限りその日のうちに入力するようにしています」。



学生の声



市原 智也 さん（3年生）

杉浦先生は関連資料を用意してくださるので板書を書き写す必要がなく、講義をしっかりと聞きながらメモできるので、理解度が増していると感じます。この講義では、地域ごとの社会的・経済的特徴やその特徴による地域差など、様々な視点から都市を見ることができ、とても興味深いです。

鎌田先生の必需品

must have!

デジタルペーパーに“書いて考える”

「パソコンよりも、手書きの方がいいアイデアが浮かぶから」と鎌田先生。最近ではペーパーレスで長期保存できるよう、手書きスタイルのままデジタルペーパーに移行しています。



学生の声



駒木 幹也 さん（3年生）

鎌田先生の話し方は優しく聞き取りやすいので、内容がずっと頭に入ります。少子高齢化が進む今、年金制度は一見損をするように思えますが、「マクロ経済スライド」という制度を知り、イメージが変わりました。とても興味深く、この分野をもっと学びたいと感じたきっかけでした。



人がつくり、 人が動かす交通

若林 拓 教授 Prof. Wakabayashi Hiroshi

交通の計画
3 年前期 / 選択科目・選択科目 (地域計画科目群)



都市開発を提案できる 思考力と創造力を

福島 茂 教授 Prof. Fukushima Shigeru

都市と事業構想
2 年後期 / 選択科目・専門部門 (開発・環境科目群)

交通は「人の心」がある現象

— 「交通の計画」の講義では、どのようなことを学びますか？
「交通の計画」とは、交通工学に基づいて都市交通と地域交通のあり方について計画する学問です。効果的な交通計画には、現象の理解が必要不可欠。交通の性質をきちんと知ることが重要です。それを知った上ではじめて、交通の性質を生かすような交通計画ができるのです。

最初に、交通の調査、交通流の性質について学びます。こうした基礎をしっかりと身につけることで、いずれは所要時間の予測や、渋滞の予測などでもできるようになります。それをするための基礎を学ぶ講義が、この「交通の計画」です。

交通を学び、深めることの奥深さや面白さは？

交通は、自然科学と違って社会科学です。数学的に導き出すものではありませんが、交通には「人」が必要不可欠で、そこに「人の心」がある現象です。様々な選択肢を与えたり、システムを構築しても、それを最終的に選び、動かしていくのは人間です。交通は、そこに面白さや奥深さがあると思っています。だからこそ、学生たちにも自分の頭で考え、自分なりの答えを導き出すことを大切にしてほしいと伝えています。

学びの原動力を見つけよう

— 若林先生が、交通の道に進んだきっかけを教えてください。
高校生の頃、毎朝京都の市バスの満員通過に苦しめられたことがきっかけでした。毎日「これをなんとかしたい」と思うようになっていったんです。バスの満員通過はもちろん、マイカーの増加や渋滞も大問題だと感じていましたし、当時はこれらは全て、行政の怠慢だなんて思い込んでたんです。それがきっかけになり、大学で交通の研究室に入れていただきました。学んでいくうちに、これらが行政の怠慢ではないことは、すぐにわかったんですけどね。

今「問題解決がしたい」という志の学生も多いですか？

私の研究室にも、いろいろな志を持った学生がいます。中には電車が好きでこの道を志している者もいますし「電車のダイヤを組んでみたい」という学生もいます。理由は何であれ、私はこれこそが勉強や研究の原動力だと思います。好きなことや得意なことはもちろん、「こんなことを解決したい」と思うことが、興味のある分野を見つけるきっかけになると思います。学生時代に、自分の得意分野は何か、伸ばすべき分野は何かを得心して、その武器を持って社会に出てほしいと思っています。

事業構想の考え方を身につける

— 「都市と事業構想」では、どんなことが学べますか？
都市の不動産開発を中心とした事業構想のあり方について講義しています。事業をどのようにプロデュースしていくのか、社会経済や文化の潮流の中で、どのような都市・開発・都市サービスが求められているかをしっかりと分析し、提案できる力をつけるために、事業構想の「考え方」を学ぶ講義です。

具体的にはどんな力を磨きますか？

「事業主の意向は？」「開発地区のポテンシャルは？」「その地域のマーケットやニーズは？」「世の中のトレンドは？」などを複合的に考察・分析し、それをベースにベストプランを練る方法を学びます。不動産開発の場合は、事業の採算性も考慮する必要がありますし、不動産の寿命によってタイムスパンも異なります。数十年先のトレンドもつかみながら、都市に何が求められているかを読み解き、プランの立案へ結びつけます。ただ、論理的なデータの分析だけでは事業構想はできません。論理的なデータに基づいたプランニングと、クリエイティブな提案構想を行き来することが重要。論理的かつ創造的に提案できるような「考え方」を知り、身につけるための講義です。

論理的思考と創造的思考のバランス

— 実際に学生がプランを練ることもありますか？
学生には、好んでよく行く店やアルバイト先など、実在する店舗についてレポート課題を出してもらっています。店や事業のコンセプトを調べて分析したり、考えたりすることで、そのコンセプトがどのように空間やサービスに体现されているかを自ら考察します。実際の経験から読み解くことで、こうした発想をする習慣が付き、「消費する側」から「創る側」に思考をシフトすることができます。

都市情報学部で学べることはどんなことですか？

都市情報学部は文理融合型の学部です。さまざまな分野の知識を得て、広い視座から都市をマネジメントする力、都市空間やサービスをプロデュースする力を養ってほしいと思います。そのためには、多くの都市や地域の現場に向いて実際に歩き、経験することが大切。創る側の意図を読み解くような挑戦もどんどんしてみてください。理論と実証を繰り返し、さらに論理的思考と創造的思考を何度も行き来しながら都市を見る力をつけることが、住み良い街をつくることにつながると思います。

若林先生の必需品 must have!

自分の頭で考えることが重要

「誰かに教えてもらったり拝借してくるばかりではなく、自分の頭と手を使ってゼロから考えること」。モノや情報に頼りすぎず、自分の中から生み出すことが重要です。

学生の声

若林先生は、講義中に、実際の交通事例についても紹介してください。事例の中には痛ましい交通死亡事故などもありましたが、交通工学の専門家である先生から、実際に起こった事故についての意見を聞くことができるのは大学の講義ならではの貴重な講義でした。

石塚 一輝 さん (3 年生)

福島先生の必需品 must have!

いつでも研究に取り組める 4 点セット

コンパクトなフィールドノートと思考をまとめる A4 ノート、そしてデータ分析や研究論文執筆に不可欠なモバイル PC が必需品です。研究室や自宅だけでなく、朝の静かなカフェなど、どこでも研究に取り組めます。

学生の声

事業計画や施設運営などのソフトな部分から、土地や施設などのハードの部分まで幅広い知識を習得できる講義です。不動産開発に限らず、様々な事業構想に活かせる汎用性の高い知識も身に付けることができます。福島先生は生徒と対話しながら講義を進めてくださるので、より深く理解できていると感じています。

瀧 陽介 さん (3 年生)



数学の理論を 実社会で活かす

山谷 克 教授 *Prof. Yamatani Katsu*

情報と応用解析
3年後期/選択科目・専門部門 (情報・数理科目群)

数学を活用することで問題を解決

—「情報と応用解析」の講義内容は？
私たちの身の回りは、数学を使うことでうまく表現できる、さまざまな問題や事象にあふれています。本講義では、高校まで勉強してきた「数学」に「コンピュータ」をプラスすることで、さまざまなことを数学の言葉で表現する方法や、コンピュータの活用方法などについて解説しています。
—高校までに習った数学との違いは？
おそらく高校までに習ってきた数学は、数式を暗記したり計算したりするものが多く、それがどんな風に役に立つのかを知らずに勉強してきたのではないのでしょうか。練習問題を通して理解を深めることも重要で面白いですが、その理論や知識が**実際に身の回りでどのように活かされているのかを知る**ことは、学生にとっても新しい発見になるようです。現代では、コンピュータを効果的に使うことによって、数学の言葉で書かれた現象を擬似的に再現することもできるようになり、その中から新しい科学の理論や技術が発見されています。そこから、今までになかったアートやアミューズメントが生み出されていることもたくさんあります。例えば、学生たちがスマホでいつも見

ている「映像」。これも数学で表現することができます。**数学の理論や知識が、社会でどのように活かされているのか**、点と点がつながるような体験をしてほしいと思います。講義しています。

数学を社会に活かす、考え方を身につける

—講義を通して特に伝えたいことは？
これまで学んできた数学を、コンピュータによって目に見える形にしていくことは、彼らが想像している以上に難しく、そのぶん大きなやりがいになっていると感じています。現代の情報化社会には、数学によって表現されたものが身の回りにたくさんあります。数学をツールのひとつとして知り深めること、また好奇心を持って学ぶことが、将来どこかで役に立つのではないのでしょうか。
—都市情報学部で、どんな学びを深めてほしいですか？
この学科には、政治経済や土木建築、情報数理、農学まで、あらゆる分野の教員が在籍しています。本で調べたり、検索するだけの知識ではなく、**人と話して得る知識は、自分の世界を深めてくれる**と思います。これだけの専門家が集まっている学科はありません。チャンスを活かしていろいろなことを吸収し、経験して、社会に出ていってほしいと思います。

山谷先生の必需品 *must have!*

先生にとっての「計算機」はコレ！

山谷先生にとってなくてはならない「計算機」。計算機と言っても一般的な電卓ではなく、これは広く使われている数式処理システム「Mathematica (マセマティカ)」というもの。



学生の声



山田 虹穂さん (3年生)

身近なものに数学が関わっていたり、実際に企業などで活用されていたりと、数学と社会や生活の繋がりを知ることができ、とても面白いと感じています。山谷先生は一人ひとりの理解度を確認しながら丁寧に講義を進めてくださいます。質問もしやすく、毎回理解を深めることができました。



人工知能の仕組みと 活用方法を学ぶ

亀井 栄治 教授 *Prof. Kamei Eiji*

知識と情報処理
3年後期/選択科目・専門部門 (情報・数理科目群)

都市問題の解決に人工知能を活用

—「知識と情報処理」は、どんな講義ですか？
講義では、知識情報処理の基礎を学びます。学問的には「知識工学」と言い、人工知能を構築するための土台となる学問です。講義では難しい数式等は使用せず、人工知能の「仕組み」について主に解説します。都市情報学部のほとんどの学生にとって、この分野は初めて学ぶ新しい知識だと思います。理系の学生はもちろん、文系の学生にもわかりやすいよう、重要事項だけを取捨選択して、わかりやすく説明するようにしています。

「つくる」立場ではなく「つかう」立場に

—講義を通して、特に伝えたいことは？
学生には「人工“頭脳”ではなく人工“知能”だ」ということを繰り返し伝えていきます。人工知能と聞くと、多くの人は「人間の頭の中と同じものを、コンピュータで実現したもの」というような壮大なことをイメージしがちですが、ひらめきなどができる人間の「頭脳」とは全く別ものです。人工知能は、コンピュータ上に蓄積された知識を元に推論することで結論を導き

出すもの。「知識と情報処理」は、この「知識を処理する能力」について理解を深めるため講義です。

—「都市問題の解決」と「人工知能」の接点とは？
人工知能は、**さまざまな問題を解決するツールとしてさまざまな場面で活用されています**。都市問題の解決に限らず、これから先、学生たちが社会に出て何か問題に直面したときに「これなら人工知能で解決できるかもしれない」と気付けるように、こうした知識を蓄えておくことはとても重要だと思います。
—まずはその仕組みを知ることが大切なんですね。
この講義のゴールは、プログラミングの習得でも、システムをつくることでもありません。都市計画の策定や都市問題の解決に、**人工知能を「つかう」ことができるよう、仕組みを理解することがゴール**です。方法さえ知ってさえいれば、問題に直面したときに、解決方法のひとつとして「使ってみよう」という選択肢になるでしょう。都市情報学部は、さまざまな領域について広く横断的に学べる学部です。複数の分野に触れることで、見聞を広げてほしいと思っています。「これがいつ役に立つのか？」と疑問を持つ必要はありません。何がいつ、どのような形で役に立つかは、誰にもわかりませんが、逆に意外なところで意外な知識や経験が役に立つこともあります。だからこそ、人生は面白いんだと私は思います。

亀井先生の必需品 *must have!*

デジタルカメラで現場の色彩を分析

景観工学について研究し、まちの色彩について分析する機会が多い亀井先生にとっての必須アイテムは「カメラ」。現場の色彩を測るためにこれで撮影し、画像の色を分析しています。



学生の声



浅井 俊介さん (3年生)

「人工頭脳ではなく人工知能だ」という話が、とても印象に残っています。講義の中では、私たちが普段から見ている映像など、身近なものを取り上げて教えてもらえるので、興味が湧き、理解しやすいです。難しい計算や数字は一切出てきませんので、文系コースの学生にもおすすめです。

個性豊かな

23

のゼミナール

学生は3年次から、関心のあるテーマのゼミナールに入ります。教授が専門とする学問や特定のテーマについて研究や討論を重ねるゼミ。教授の指導のもと、少人数制で主体的・能動的に学びを深めます。ここでは、都市情報学部の個性豊かな23のゼミナールを紹介します。

経済経営

雑賀ゼミナール

良い企業の研究

「良い企業」の「良い」とは何を意味するのでしょうか。経営や利益が良いのか、人材が良いのか。安定性や知名度、信用が良い（高い）のか。雑賀ゼミでは、業界研究・企業研究を行うことで、優れた企業を発見し、世の中の仕組みを深く研究し追求していきます。この研究が、就職活動につながります。就職対策のための「自己PR」「志望動機」「4年間何を学んだのか」等の書き方も、徹底的に議論し指導します。

全国の大学で毎年15校しか選ばれない、富士ゼロックス社が主催する『志プロジェクト』に3年連続選ばれて、地元企業への学生向けパンフレット制作活動を行っています。

- # 企業研究
- # 業界研究
- # マネジメント力
- # 就職に強くなる



経済経営

鈴木ゼミナール

身の周りの都市問題を数理モデルにより解析する

身のまわりの都市に関するデータを収集・分析することにより現状を把握し、そこから問題を明らかにします。つぎにこれらの問題を、数学を用いてモデル化して解くことを目的としています。「各自が関心のあるテーマを見つける」「実際に研究をおこなう」「卒業論文を作成する」。この3つの過程を通して現実のデータから現状を分析し、都市問題の解決をはかることの重要性を身につけます。

ORと統計の理論を学び、卒業研究では、これらの手法により都市問題の解決を目指しました。学外演習などのゼミ行事も積極的に実施し、今年度も「よくまなび、よくあそび」しました。

- # 都市問題を数理モデル化
- # 統計学
- # オペレーションズ・リサーチ
- # 都市問題の解決



経済経営

宮本ゼミナール

計量経済学

データを使って自分で立てた仮説を検証し、経済効果を計測します。自分の立てた仮説についてデータを使って検証したり、経済効果を計測したりします。例えば、「ラーメン屋の売り上げは天気に影響されるのか」「地域によって婚姻率に差があるが、どのような要因によって婚姻率は決まるのか」「名城大学のナゴヤドーム前キャンパスの建設は、愛知県にどれぐらいの経済効果を与えたのか」などです。

今年（2019）は私が9月から在学研究で海外へ行くため、4年生のみでのゼミとなりました。ゼミ生全員、仲が良くみんなで助け合いながら卒業論文を書き上げました。

- # 仮説の検証
- # 経済効果の計測
- # データを分析する力
- # 統計分析ソフト



経済経営

島田ゼミナール

会計情報と企業経営

企業は、様々な利害関係者との関わりを持っており、それらに対して経営状態を開示伝達する責任があります。その会計責任において開示伝達されるのが、企業の会計情報です。会計情報を分析することで経営状態を知るだけでなく、経営のあり方が企業業績にどう反映されているかを分析することができます。島田ゼミでは、実際の企業の会計情報を分析することで、会計の重要性について理解します。

島田ゼミナールでは会計情報と企業経営を中心に勉強しています。そして、卒業研究は企業が公表している実際の会計データを客観的に分析し、対象企業の経営状態を詳細に検証しています。

- # 経営学
- # 会計学
- # 経営分析
- # 簿記



経済経営

杉浦ゼミナール

人文地理学

都市や地域における社会・経済の動きを、地理的視点で考えるゼミです。日本の大都市圏/地方圏、大都市/中小都市/農山村における様々な社会的・経済的活動を、地域差や地域間の結びつきといった地理的視点から捉えています。公的統計はもちろん、自身でのアンケートや現地調査を通じて得られた様々なデータから、地域の実情について把握・分析・表現（地図化・図表化・文章化）する方法を学び、都市や地域に関する地理的な理解を目指します。

私自身は地方行政の地理学を専門として高齢者福祉や介護保険を主な研究対象にしていますが、ゼミ生の卒論テーマは、地理的視点が生かせる内容であれば自由に選べます。

- # 地理学
- # 地理的視点から社会を見る
- # 地域調査実習
- # 都市に対する地理的な理解



財政行政

赤木ゼミナール

政府や地方自治体の経済活動

国、都道府県や市町村などの地方公共団体、都市の財政制度の現状と問題点、そしてその基礎となる理論を理解し、今日的な政策を考察しています。そのために、社会的インフラなどの公共支出論、消費税や所得税などの租税論、国の借金については公債論を読み解きます。また、都道府県や市町村の役割などの地方財政論等を、制度と理論の両面から学習し、理解を深めていきます。

毎年、個性的なゼミ生に囲まれて和気あいあいとしながらも、しっかりと勉強しています。学生のうちに、いろいろなことにチャレンジしてみてください。

- # 経済学
- # 税金
- # 社会保障
- # 政府の役割とあるべき姿



財政行政

稲葉ゼミナール

国際関係論

世界中の都市を歩き、言語・文化・社会を学び、都市・地域・国家を理解するためのゼミです。ゼミでは英語の本を含め、文献を何冊も読むことで、世界中の都市や、日本との関係などを紐解きます。外国を学ぶことで日本をより深く理解し、外国との架け橋になることができます。また、ヨーロッパやアメリカ、オセアニア等への留学も進めており、ゼミでのアドバイスのもと、毎年何名かが留学しています。

2019年は、杉原千畝の足跡をたどる12日間のポーランド・リトアニア旅行と、杉原千畝ボランティア・ガイド育成プログラムを行いました。2020年も両プログラムを続けます。

- # 国際政治
- # 国際機構
- # 外交史
- # 海外留学



社会保障と社会福祉

人は赤ん坊として生まれ、老人として死んでゆくにもかかわらず、市場経済という競争原理の中で一生涯を生きて行かなければなりません。その中で「自分らしく生きる」「生き甲斐を感じられる人生を送る」社会の仕組みを考える必要があります。「生き甲斐」を考えることは、心の視点から物事をとらえること。ふと自分が不安になったり、目の前の困難から逃げてしまったりするのか、理由が分かるようになります。

鎌田ゼミはゼミ生同士の自由闊達なトークで時間が流れています。何か目標を掲げてガムシャラに打ち込んで時間を使うのではなく、ゆったりと自分を見つめて欲しい。

- # 社会保障
- # 互助型社会
- # 働き方改革
- # 超少子高齢化



公共政策の観点から 都市問題を解決する

地域の課題解決のためには、長期的な視点に立った総合計画が必要です。地域経営の視点や、自治体の事例研究と公共政策の理論研究から、あるべき総合計画を構想します。さらに、安心して暮らすために必要な、国や地方自治体の活動、公共サービスなど、公共部門の諸制度は多くの人々にとって納得のいくあり方が問われます。制度のあり方を理論的に構想し、実現可能な政策案を考究します。

今年度のゼミナール研修旅行は関西へ行きました。大阪造幣局の工場見学と兵庫県に加古川総合保険センターの視察研修でした。とても大切なお金と健康について学びました！

- # 公共政策
- # 分析力
- # 計画力
- # プレゼンテーション力



交通工学・交通計画

学問的に交通工学・交通計画とは、交通の性質や人間の行動特性を知った上で、効率的な交通システムを構築するという、国土利用と交通を相互に考える学問です。つまり、交通とまちづくりの相互関係を考慮した上で国土利用や地域計画と交通システムを同時に考える「都市・地域問題の医者」と言えると思います。ゼミでは、交通現象の理解、課題の抽出、都市問題の解決法、という手順で卒論等を進めます。

交通工学と交通計画の関係は、交通の現象や性質を正しく理解する必要があるという相補関係です。道路網の信頼性向上策、道路の交通安全対策、標識による経路誘導効果の評価などを研究しています。

- # 交通工学
- # 交通計画
- # 都市問題のお医者さん
- # 自ら考える力



プロジェクト評価

環境問題をはじめとする任意の都市問題を取り上げ、問題の分析、解決策の提案、解決策の評価を行います。①プロジェクト評価（例えば、リニア中央新幹線の整備による社会経済の変化を予測）、②環境経済評価（例えば、環境の経済価値を計測）、③費用便益分析（例えば、温暖化問題を回避する施策の費用対効果を分析）などをテーマに、フィールドワークや発表、討論を繰り返します。

2019年度に6回、白川郷の駐車場でナンバープレート調査を実施しました。朝8時から夕方6時までの調査は大変でしたが、調査終了後の食事や温泉はとても楽しそうでした。

- # プロジェクト評価
- # 環境経済評価
- # 費用便益分析
- # 企画立案力



地方自治・まちづくり

地方自治の仕組み・構造等を、理論と具体例の双方から探ります。具体的には福祉やまちづくり系のNPO団体を自ら探し、一日体験をしてレポート報告をします。地方自治の仕組みとまちづくりの関係を知ることで「市民主体のまちづくり」をどうやって実現するのかを学びます。これまでのOBやOGは、県警察や市町村職員、消防署や農協、NPO団体や民間企業などに就職し、その力を発揮しています。

NPOでの1日体験や可児市議会との直接意見交換などの実体験と、本の輪読を併せ、まちづくりの現場を体感できるゼミ運営を心掛けています。

- # Administrator（地域の行政）
- # Business（民間企業）
- # Coordinator（外部の有識者）
- # DemcraticOrgaizations



都市水利用計画

現在、多くの都市で水道水にトリハロメタンという強い発がん性を持つ物質が検出されるなど、健全とは言えない状況にあります。水利用計画ゼミでは、質量共に安全な水を安定的に利用できる都市水環境を目指し、数理解析、人工知能といった情報処理技術を駆使し、飲み水の安全性、災害時における生活用水・防災用水・医療用水の確保、水環境の改善、水災害に強いまちづくりを追求します。

最近、人工知能を用いて水環境を評価する研究に取り組んでおります。水環境に関連する客観的データと人々の感性や水生生物たちの幸せを融合させて評価する試みです。

- # 水質と飲用水の安全性
- # 気象変動と水害の多発
- # 水害軽減対策
- # 水環境の評価と整備



身体環境共生学

多くのフィールドワークを通して、地域生態学や環境社会学などを学ぶことで、環境文化を活かした地域の活性化に役立ち、その思想は、将来持続可能な社会の形成に繋がっていきます。「教師に頼らない」「Webの情報は疑う」「自分たちで考え行動する」が、小池ゼミのモットー。基本は「Sense of Wonder」の心を持ち続けることです。「頭」で理解する前に、「身体」で環境を感じる事が大切です。

南知多でお米づくりをしています。今年は30kgの収穫がありました。管理不足で去年と比べ収穫量は大幅に減少しましたが、みんなで分けて食べます。自分で手をかけた作物は美味しいですよ。

- # 里山保全
- # 環境教育
- # 郊外再生
- # 市民農業



21世紀の都市像の理解と計画論

現在から2050年ごろまでの社会の潮流を読み解き、都市・地域社会はどのような変貌を遂げようとしているか、求められる都市像やあるべき計画論を発想し、それを実現する方策を考究します。①少子高齢化・人口減少 ②情報化社会 ③グローバル化 ④環境意識の高まり ⑤地方分権化・市民社会という5つに着目。メガトレンドの理解のもとで、「あるべきもの」「求められるもの」を発想する力を養います。

3年生は恒例の南信州フィールドスタディ（飯田市主催）に参加するとともに、中電不動産（株）主催ワークショップ「街の豊かさをつくる新しい仕組みづくり」に参加し、最優秀賞を受賞しました。

- # 都市・地域計画
- # 都市再生
- # 地域活性化とまちづくり
- # 持続可能な都市づくり



Think Globally, Act Locally

「環境学」を掲げる森杉ゼミのテーマは、①地球温暖化問題による被害の経済学的評価や適応策の検討と効果分析 ②交通インフラ整備の評価 ③少子高齢化問題と地域経済 ④都市生活環境に係るもの全般。ゼミ活動の軸は卒業研究で、学生自身がそれぞれ見つけた研究テーマにおいて、仮設の設定や具体的な分析方法を指導します。自然科学と社会科学を融合した、新しい『環境学』の創設を目指します。

最近の森杉ゼミでは、地球温暖化などの環境問題、少子高齢化を背景とした地域問題、交通・観光・エネルギーをモチーフとした都市問題等に日夜取り組んでおります。

- # 環境経済学
- # 確率総計と計量経済学
- # 公共経済学
- # 交通経済学



Web Programming

Amazon や楽天のようなネットモールの仕組みを学び、オリジナル Web システムを開発するゼミです。Java プログラミングによるネットショッピングなどの業務系 Web システムや、e-Learning などの教育系 Web システムの開発技法、Windows アプリケーション開発技法を習得します。プログラミング能力とシステム構築力を身につけることで、コンピュータエンジニアなどの進路につながります。

今年度 20 期は仲良くお互いの存在を意識し、Java プログラミングに取り組み、抽象概念の理解、ライブラリやイベント処理を用いた Windows・Web アプリケーション開発技法の習得を進めました。

- # Java プログラミング
- # 動画編集
- # コンピュータ設定スキル
- # Web システム



データの収集・分析・評価

音、画像、人間行動に関連して発生する情報や信号の解析、処理技術について学びます。ゼミで扱うテーマは、数学、デジタル信号処理、物理、電気工学、生理学、聴覚、心理、Web 技術など、多分野と関わっているため、幅広く学ぶことができます。社会を支える情報基盤技術を学び、問題解決のための論理的思考力の獲得に役立つことが、問題設定・解決策の提案・実行ができる人材につながります。

ゼミでの学習は、知識を与えられるだけでなく、自ら知識を求めるといった最も大学らしい活動であると思っています。ゼミの仲間とともに様々な知識・情報を得てください。

- # データの収集・分析
- # データの評価
- # プログラム制作
- # 情報技術の活用



応用数学

世の中のいろいろな問題を、数学と情報技術を利用して解決するための理論と方法について研究しています。研究テーマを決めるのはゼミ生。興味・関心のあることを選びます。問題を解くための情報もなく、答えが見いだせないケースであっても探究していきます。数学的手法を学び、身近な疑問やシステムに対して数学的アプローチを行うことで、この理論と方法が、将来問題解決をする際に役立つはず。

応用数学のゼミです。本年度の3年生は、期前半はフーリエ解析の勉強を、後半は、変分原理、データ解析、逆問題、数列などの勉強をしています。

- # 応用数学
- # 応用物理
- # 調和解析
- # 情報工学



景観・環境デザイン

都市計画の分野のひとつ「景観・環境デザイン」について研究しています。景観とは、環境に対する視覚からの評価です。私たちの生活はすべて環境のもとに営まれており、視覚は環境の影響を大きく受けます。だからこそ、環境を美しく豊かにすることは非常に大切なのです。体を育む栄養素が食物として口から摂取されると同じく、「心を育む栄養素」は景観として目から摂取されるのです。

ゼミのテーマ上、色彩の知識は必須であり、力試しとしてほとんどのゼミ生が色彩検定(2級)を受験し合格しました。最近では、デザインの検討ツールとしてCGやプロジェクションマッピングに取り組んでいます。

- # 景観分析・景観計画
- # 環境デザイン
- # 環境色彩
- # 都市計画



患者安全に貢献する保健医療情報学

医療や介護で発生する様々な問題をアンケート調査やインターネット検索により情報収集し、データ分析を通して問題解決のための改善提言を考えるゼミです。医療や介護保健の知識習得と社会人基礎力を養成するため、厚生労働白書をベースにプレゼンやディベートなどのアクティブ・ラーニングを通して、卒業研究テーマの課題を検討し、医療関連学会発表を通して、エリート社員として十分通用する問題解決能力を育成します。

患者安全に必要な知識習得の成果を「医療情報技師」、「医療機器情報コミュニケーター」の学会認定合格で確認します。学会発表に至ったスキル向上は目覚ましく、卒業生の職場でも役立っています。

- # office を使いこなす
- # 保健医療情報・患者安全
- # プレゼンテーション力
- # ディベート力



数理計画学 Operations Research

都市の様々な問題や経営・経済の問題、社会問題などを、数理とモデルという視点や、数理計画学、ORなどの手法を用いて考察し、卒業研究の完成を目指します。ゼミ活動や卒業研究を通して、都市や社会に関して自らの問題意識をもとに情報の収集・調査・分析・評価を行うことを身に付け、論理的に考察して問題を解決するための姿勢・能力を培います。学習・研究成果を発表する技術も身に付けます。

皆さんが「したいこと」、「できること」、「すべきこと」が一致する人生を歩んでくれることを願っています。

- # 数理計画学
- # 意思決定理論
- # 統計学
- # 数理モデル



意思決定と知能情報処理

身の回りの諸問題を定義し、数理モデルという抽象的な構造物として再構築し、分析する力をつけます。同時に、モデルと現実との違いを認識し、理論や技術と社会との関係について考える習慣を養います。数理モデルや技術系の文章の書き方はもちろん、C言語、その他プログラミングについても学んでいきます。数理モデルを用いて抽象的思考を学ぶことで、今までの自分とは異なる視野を獲得できます。

日頃から不思議に思っていることや講義でよく分からなかった点、世の中の気になるニュース、興味を持って取り組んでいることなど、ぜひ教えてください。

- # Analytic Hierarchy Process
- # 数理モデル化
- # プログラミング
- # 情報可視化



2019年度で退職される先生から学生の皆さんへ

学部創設以来、25年間勤務しましたが、3月末をもって定年退職します。ゼミでは美濃加茂市、犬山市、東浦町、氷見市などをフィールドにして、行政職員や住民のみならずのご協力でいろいろな調査活動を行い、成果を展示会で発表しました。当学部の特徴は、まちづくりの視点から、地域に多面的にアプローチするところにあります。学問分野が違うと言葉も発想も方法も異なります。異なるもののぶつかり合いから、新しいものが生まれます。都市情報学部は、学生にとって広く学ぶ場ですが、同時に深く学ぶことにも努力してほしい。そして、まちづくりの現場である地域で学び、地域に成果を返すことを期待します。

海道 清信



本ゼミは退職のため今年度で閉講することになる。卒業生は総勢で190名ほどになる。博士の学位を取得して企業研究所や大学で先生業をおこなっている方や、情報企業の一線システム設計に励んでいる方、技術営業で世界を飛び回っている方、子育てを卒業しかかっている方など様々な方がおられる。あまり無理しないで、頑張れ、頑張れ！と声援を送りたくなる。ゼミ教育とは何か。難しい質問であるが「よく生きるための知恵出し実訓練」とでも思いたい。その意味で本学部のゼミは特色ある2年プログラムです。これからゼミに参加する方は大いに期待し、大いに学び、素晴らしい自分の将来を勝ち取ってください。

岡林 繁



優秀卒業論文 (2019年度)

ゼミナール	名前	題目
雑賀 憲彦	中村 祐太	日本の大学の価値についての研究
島田 康人	中島 彰哉	ドラッグストア業界における経営とM&Aの関係
鈴木 淳生	戸田 伶佳	人々の暮らしと地球温暖化に関する統計的分析
稲葉 千晴	武藤 高明	ソビエト連邦の歩み
鎌田 繁則	森 秀	国際化における外国人材の活用
手嶋 正章	谷口 詩野	単身高齢者の住まいの選択
昇 秀樹	森 裕貴	ギャンブル大国である日本にカジノ誘致が及ぼす影響について
海道 清信	奥平 真優子	老朽木造密集地区の再生マネジメント —岡崎市松本町松應寺横丁のケーススタディ—
海道 清信 (柄谷ゼミ)	鳥居 真実	被災者のペット飼育に関わる実態と課題～熊本地震における避難所・仮設住宅・災害公営住宅を通して～
張 昇平	中納 満善	名古屋における雨流出抑制施設の整備促進策について
大野 栄治	田口 裕夢	CVMによる京都市の観光公害の社会的費用の計測
福島 茂	宮澤 涼太郎	名古屋における地下街の特徴と課題 —札幌・福岡との比較から—
森杉 雅史	鈴木 丞	ロードジッパーシステム導入による 渋滞緩和シミュレーション
岡林 繁	小田 貴裕	フォントが与える可読性とその影響
亀井 栄治	鷲澤 翔	都市景観における色彩が与える印象について
酒井 順哉	安田 大牙	病院における医療材料の受発注業務の実態 および標準化意識に関する調査研究
西野 隆典	西脇 正悟	超音波による定常波を用いた反射制御スクリーンの作成
杉浦 伸	浅井 拓	中日ドラゴンズ 松坂大輔選手が及ぼす観客動員数の分析

受賞報告



福島ゼミ3年生がワークショップで最優秀賞を受賞

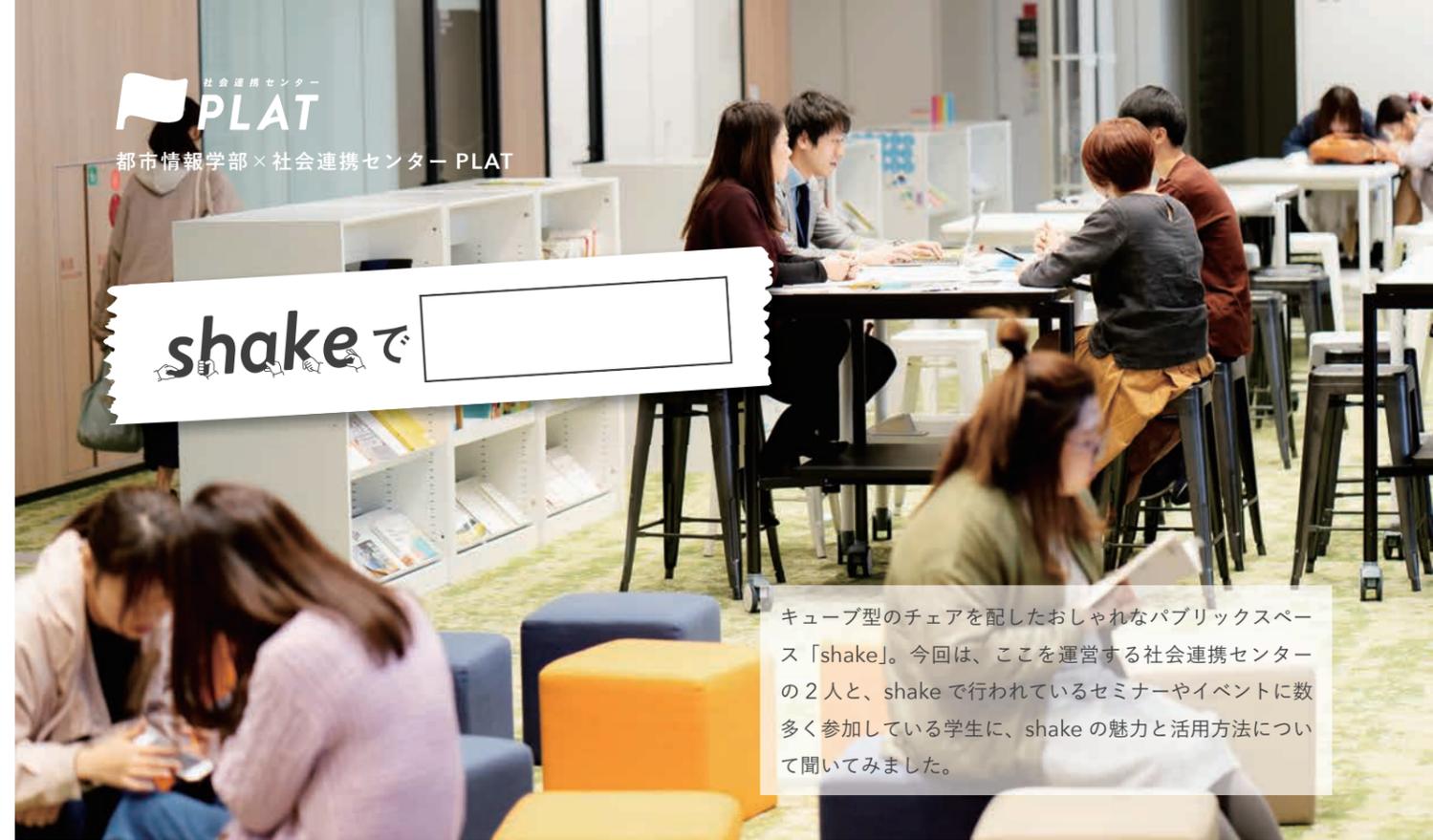
都市情報学部福島ゼミ3年生チームが、中電不動産(株)が主催する『街の豊かさをつくる新しい仕組みづくりワークショップ』に参加し、最優秀賞と次世代の街賞を受賞しました。「エディブル・シェアガーデン(食べられるシェアガーデン)」と「世界に一つだけの広場—私たちのこだわりが街にある暮らし」という2案の提案を行い、前者が最優秀賞と次世代の街賞をダブル受賞しました。住宅開発の中心に共同家庭菜園を設置しながら、【土・自然とのふれあい】【採れたての食材を使った野外パーティ】【子供の食育】を通じて、コミュニティづくりを進めるものです。計画地にどのような付加価値をつけるか、菜園サポートサービス、住民同士の交流促進機能、情報共有ツールなど共同菜園とコミュニティをどう運営するかなどがよく検討されおり、高く評価されました。

2019年度 専任教員の専門分野と主な研究テーマ

	教授名	専門分野	研究テーマ
経済・経営	雑賀 憲彦 教授	経営戦略・人事戦略・マーケティング戦略	民間企業・NPO・自治体の経営課題の抽出と経営戦略の立案民間企業/人事賃金制度の分析、評価と賃金システムの改善策立案/マーケティング課題の抽出とマーケティング戦略の立案
	島田 康人 教授	管理会計・経営分析	顧客別収益性分析の進展、情報化と企業間関係の変化
	杉浦 真一郎 教授	人文地理学	地方行財政に関する地理学的研究
	鈴木 淳生 教授	数理ファイナンス・金融工学・オペレーションズ・リサーチ	デリバティブの価格付け、都市のOR
	宮本 由紀 准教授	地方財政・都市経済学	子育て支援政策に関する実証分析
財政・行政	赤木 博文 教授	財政学・公共経済学	社会資本形成に関する理論的および実証分析、地価対策に関する実証的分析
	稲葉 千晴 教授	国際関係論・国際政治学	国際政治史、日露関係史、北欧現代政治、情報と国際通信
	鎌田 繁則 教授	社会保障論	少子高齢化社会、市場経済における社会保障のあり方
	手嶋 正章 教授	公共政策学・経済政策学	地域情報化政策に関する研究、地域政策とまちづくり、財政問題と政策論
	昇 秀樹 教授	行政学・行政法・政治学・地方自治論等	地方分権の課題と展望、まちづくりの手法、自治体の政策形成、地方自治法解説、地方公務員法逐条解説
地域計画	海道 清信 教授	都市計画・都市再生論・まちづくり論	コンパクトシティ、歩けるまちのデザイン、防災建築街区の再生、人口減少都市の持続可能性、人口減少都市の持続可能性と国際比較
	柄谷 友香 教授	都市防災計画・リスクコミュニケーション	防災・減災社会の実現に向けたひと・まちづくり、広域巨大災害からの被災地の復旧・復興プロセスの解明
	張 昇平 教授	都市水文学・水利用計画	水資源開発計画と水資源管理、都市水環境システムの解析および制御、濁水と水供給の安定化
	若林 拓 教授	交通工学・交通計画	交通システムの信頼性向上に関する研究、災害時の交通計画、道路案内標識の経路誘導効果の評価
	大野 栄治 教授	土木計画学・プロジェクト評価	温暖化影響・温暖化対策の経済評価、公共事業の費用便益分析
開発・環境	小池 聡 教授	農村計画学	農村地域政策の分析と評価
	福島 茂 教授	都市計画・地域計画・住宅政策	社会経済環境の変容に対する都市計画・居住政策のあり方、グローバル経済における地域開発戦略、産業立地をめぐる国際地域間競争、持続可能な地域づくり: Learning Regionアプローチとコミュニティエンパワメント
	森杉 雅史 教授	環境経済分析・土木計画学	オプション価格・価値による健康リスクアプローチ、地球温暖化に対する地域適応策の経済学的評価
	宇野 隆 教授	数学・確率論・情報科教育法	確率多項式に関する研究、従属確率変数の極限定理に関する研究
	岡林 繁 教授	表示像の視認・認知・自動車用表示装置・視覚ヒューマンインタフェース	交通視環境の認知に関する研究、ビジュアルヒューマンインタフェースに関する研究、車両用情報表示システムに関する研究
情報・数理	亀井 栄治 教授	景観工学・環境工学	景観の特徴とゆらぎに関する研究、スカイラインのゆらぎとその快適性に関する研究、エキスパートシステムにおける特徴づけに関する研究
	木下 栄蔵 教授	社会システム工学・マクロ経済学・サービスサイエンス・土木計画学	意思決定手法の論理的な研究、意思決定論の都市施策への適用に関する研究、意思決定論によるプロジェクト評価に関する研究、新しいマクロ経済理論の提案と検証
	酒井 順哉 教授	医療情報学・手術医学・医療機器安全工学	医療機器本体バーコード・2次元シンボル標準化の推進研究、患者に役立つ医療事故再発防止のための安全方策の研究、在宅医療・介護のためのIT技術導入に関する研究
	西野 隆典 教授	立体音響・音信号処理	三次元音響の収録と再生に関する研究、音声・音響信号を用いた人間と機械とのインタフェースに関する研究
	山谷 克 教授	応用数学・数値計算	画像や音楽に含まれる幾何学的特長を用いた効率の良い情報削減方法の考案
杉浦 伸 准教授	数理計画学・オペレーションズリサーチ	数理計画学、オペレーション・リサーチの都市問題、都市情報学への適用	
水野 隆文 准教授	知能情報システム工学	スマートコントラクトを含むビジネスモデルの設計、フロントエンド向けルールベースシステムの開発、AIシステムの経済価値の評価、大規模データベースシステムの構築、複雑系ゲームマシンの解析、感性データの可視化	

2019年度の研究業績

稲葉 千晴	著書	日本によるフィンランドの独立承認、1919年5月／ユハ・サウナワラ、鈴木大路郎編／日本とフィンランドの出会いとつながり：100年にわたる関係史／大学教育出版／2019年／978-4-86692-03-1／pp.7-21
	著書	Japani ja Suomen itsenäisyyden tunnustaminen toukokuussa 1919／Suomi Japani: Kaukaiset mutta läheiset, Juha Saunavaara ja Laura Ipatti (toim.), Helsinki: Edita／2019年／978+951+37+7485+1／p.18-32
昇 秀樹	論文	「団塊世代」「団塊ジュニア世代」の加齢と中央・地方政府の役割 —もともたれる「家庭、コミュニティの再構築」と中央・地方政府の再編成—／名城大学都市情報学部／都市情報学研究No.24／2019年／pp.3-11／査読有
	著書	交際費の資金前渡と職員の個人責任、地方公務員の個人責任／(株)ぎょうせい加除本(共著)／2019年／pp2381-2384
	著書	地方公務員の個人責任／(株)ぎょうせい加除本／2019年／うその報告で忌引休暇を複数差支不徳取得した職員への処分／2019年／1063p-1066p
海道 清信	論文	柳沢究・海道清信・脇坂圭一・米澤貴紀・角哲・高井宏之／中部地方における防災建築街区の実態把握と評価および現況の課題—近現代の建築資源を活かしたまちなか居住の実現に向けて—／住総研 研究論文集・実践研究報告集／財団法人住総研／No.45、2018年版／2019年3月／p129-140／査読有
	論文	岡本和輝・高井宏之・海道清信／バンコクにおける3階建てタウンハウスの供給特性と非住宅利用の実態／日本建築学会技術報告集／日本建築学会／第26巻、62号／2020年／p197-202／査読有
張 昇平	論文	QI, JIE AND S.P. ZHANG: ASSEMBLAGES OF POWER AND THE ARTS OF GOVERNING THE BODY, PROC. OF ANNUAL MEETING OF AMERICAN EDUCATION RESEARCH ASSOCIATION, TORONTO, CA. 2019.
	著書	ZHANG, S.P. AND JIE QI: CONSTRUCTING AN ARTIFICIAL INTELLIGENCE MODEL FOR WATER ENVIRONMENT EVALUATION, PROC. OF 5TH INT. CONF. ON SCIENCE, ENGINEERING & ENVIRONMENT (SEE2019) BANGKOK, THAILAND, ISBN:978-4-909106032C3051
福島 茂	論文	シンガポールの公共住宅政策の展開：新自由主義経済のもとで公共住宅政策の果たす役割／都市住宅／105号(2019 Spring)／2019年／85-92(招待論文)
	論文	Montouch Maglumtong and Shigeru Fukushima／Contemporary Street Food Vendors and Their Business in Modernizing Bangkok under the 'Return the Walkway to the Public' Policy, Thailand／2019 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies Proceeding／2019／(CD-ROM), University of Seoul, R.O.Korea, 16 pages,／国際会議発表論文／アブストラクト審査有
	論文	福島茂・矢嶋祐貴／都市計画提案制度に対する自治体のスタンスと対応：協議型民間都市開発のプラットフォームとしての可能性と限界／第42回全国大会研究報告要旨集／日本計画行政学会／徳島文理大学／2019年／D1-2(全4頁)／アブストラクト審査有
酒井 順哉	論文	酒井順哉、高橋秀典、高井栄治、可児忠夫、久野栄治、加藤 稔、宮田裕一朗／輸液ポンプの流量・予定量を含めた4点認証と動作状態の連続監視システム開発に関する研究／第23回日本医療情報医学会春季学術大会シンポジウム2019抄録集／日本医療情報医学会／2019年／OB-9, pp.80-81／査読有
	著書	酒井順哉(共著)／医療機器安全実践必須ガイド(第3版)「医療情報編」,第1章「コンピュータの基礎」pp.15-56,第II章「情報セキュリティの基礎」pp.59-68,第III章「医療情報の特殊性と医療情報システム」pp.71-122,第IV章「診療録とその他の医療記録」pp.125-129&pp.134-139,第V章「病院情報システム」pp.143-171,第VI章「医療情報の標準化」pp.186-196&pp.210-213／エム・イー振興協会／2019年9月15日／978-4-901276-55-9 C3047
	著書	酒井順哉(分担執筆)／臨床工学講座「医用情報処理工学」(第2版),第1章：医療と情報技術(IT)pp.1-13,第8章：データベースpp.121-144,第9：データ通信とネットワークpp.145-174,第12：コンピュータによる医療機器への応用pp.189-199／医歯薬出版／2020年1月10日／978-4-263-73423-0 C3347
西野 隆典	論文	Yusuke Sakai, Toshimitsu Watanabe, Yoshio Ishiguro, Takanori Nishino, and Kazuya Takeda／Effects on the Perception of Speed and Normality When Virtual Reality Scenes／Proc. 2019 Automotive User Interfaces／Association for Computing Machinery／2019／166～170／査読有
	論文	Kosuke Ito, Kento Ohtani, Yoshio Ishiguro, Takanori Nishino, and Kazuya Takeda／Improving Target Selection Accuracy for Vehicle Touch Screens／Proc. 2019 Automotive User Interfaces／Association for Computing Machinery／2019／176～180／査読有
	論文	西野隆典, 野田要／選択型傾聴システムにおける主観評価にもとづく不要音判定の検討／日本音響学会2020年春季講演論文集／日本音響学会／2020
山谷 克	論文	N. Ohara & K. Yamatani／Theoretical Stable Hydraulic Section based on the Principle of Least Action,／Scientific Reports／9:7957／2019年
杉浦 伸 水野 隆文	論文	Shin SUGIURA, Takafumi MIZUNO／Applying Decision-Making Principles to Synthesis of Weights in AHP／名城大学都市情報学部／都市情報学研究No.24／2019年／pp.13-17／査読有



社会連携センター
PLAT
都市情報学部 × 社会連携センター PLAT

shakeで

キューブ型のチェアを配したおしゃれなパブリックスペース「shake」。今回は、ここを運営する社会連携センターの2人と、shakeで行われているセミナーやイベントに数多く参加している学生に、shakeの魅力と活用方法について聞いてみました。

大学の教育と社会の資源をつなぐ「PLAT」

——社会連携センター「PLAT」について教えてください。

山本：社会連携センターは、その名の通り社会と大学をつなぐ窓口のような役割を担っています。大学の教育と社会の資源をつなぎ、社会連携事業に落とし込めるよう、さまざまな企画を考えています。
宮原：研究分野ではない文脈で、学生の力を必要としている声も年々増えています。たとえば「地域創生に学生の視点を取り入れたい」「若者と出会いたい」といった声。その声をすくい上げ、学生の学びにつないでいくのが社会連携センターだと思っています。

——そのPLATが運営している社会連携スペースが、ここ「shake」なんです。

山本：はい。shakeは学生だけでなく、様々な人が自由に使えるオープンスペースで、平日にも休日にも、アイデアソンやセミナー、交流会や勉強会など、さまざまなイベント等が開催されています。

宮原：shakeは大学にとって、縁側のような場所。単なる場所貸しではなく、学生が社会との接点を持つためのきっかけとして機能してほしいと思っています。企業や自治体から「shakeを使いたい」

という話があったら「どうしたら学生にとって学びになるような形になるか」を軸に企画を考えます。誰もが気軽に集える場であると同時に、社会の課題を解決するようなプロジェクトが生まれる場になりたい。ここを利用する企業や団体は、私たちのパートナーとして、一緒にここを盛り上げてほしいというのが、私たちの願いです。

山本：学外にある上質な学びの機会を、いかにして学生につなぐことができるか。その中で学生たちが自分のやりたいことを発見して、もっとアクティブになっていけばおもしろいな、と思っています。shakeが、学生も社会人も分け隔てなく、小さなトライアルができる場所になったらとても嬉しいです。

神宮：学内にこういうところがあるというのは、僕たち学生にとってもとても参加しやすいです。僕は社会連携センターのイベントにたくさん参加するようになって、とても視野が広がりました。同時に、「僕はこれが好きなんだな」とか、「これが苦手なのかもしれない」というのがわかってきました。社会人の方と会って真剣に話す機会はなかなかないので、とても勉強になります。学外とつながることでモチベーションが上がるのはもちろん、自分のことを冷静に分析し、もっとよく知るきっかけになっていると思います。

社会連携ゾーン「shake」ってどんなところ？



誰もが自由に使えるオープンコミュニケーションスペース。地域コミュニティ、企業、大学などの交流・活動拠点として、学生や卒業生、教職員だけでなく、地域や行政、企業など多様な人が交流できます。100を超えるパートナーシップ団体と共に運営。

場所：名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階
利用日時：9:00～21:00(原則として学休日を除く)
<https://www.meijo-u.ac.jp/social/shake/>

やりたいことを見つけるきっかけに

—そもそも神宮さんは、なぜ都市情報学部へ？

神宮：高校では進路が決められなくて、大学でいろいろなことを学びたいと思っていました。より広く、多くのことを学んで可能性を広げたいと思って、理系も文系も幅広く学べる都市情報学部を志望しました。ここなら、自分の夢が見つけれられるんじゃないかな、と。

宮原：都市情報学部は、そういう学生さんが多いのかも。それで、やりたいことは見つかった？

神宮：はい、いろいろ学んでわかったのが…僕、多分全部好きなんだと思います（笑）。経済や経営もおもしろいし、情報・数理も。地域計画にも興味があります。

山本：なるほど。これから進んでいきたい道は？

神宮：PLAT が主催するセミナーや企画に参加したのをきっかけに、僕もいつか起業したいと思うようになったんです。そう考えると、経済や経営の分野の知識も必要

「これから進みたい道が見つかりました」



都市情報学部 2年 神宮大輔さん

立ちそう」って考えられるようになりました。

—「社会に出てから再度大学で学び直すのは楽しい」とよく聞きますが、その感覚に少し似てる気がします。

神宮：そう考えると「ちょっと社会を覗き見る」ということが、shake で体験できているのかもしれない。

宮原：だからこそ私たちは、学生たちが学外との接点を持つ機会を提供したいと思っています。いろんな人と話したり、知らない分野を覗き見ることで、自分のやりたいことにスイッチを入れて、大学の学びにもっとアクセラがかかったら、もっと楽しくなるんじゃないかな。

神宮：都市情報学部では、1・2年生で基礎的なことを広く学びます。そのタイミングでこういうのに積極的に参加して、自分のやりたいことを見つけられると、講義がもっと楽しくなると思う。都市情報学部には、明確な夢があって入ってきている学生と、僕みたいに「大学で好きな分野や進む道を見つけたい」と思って入ってきている人がいると思うんですね。「夢を見つけない人」こそ、イベントやセミナーにどんどん参加して「自分の好きなこと」を探るのは、とても良いと思います。

shakeで「は」つくる

起業に関心を持つきっかけに！

イベントをきっかけに、起業やスタートアップに関心を持ちました。同じ志を持った学生や社会人と繋がるチャンスもたくさんありますよ。（神宮さん）

起業のノウハウを学びながら、企業との事業開発などに取り組む「MEIJO STARTUP CLUB」▲



shakeで「つ」つながる

学外とつながるチャンス



▲ 実践型プログラム「IMPACT!」。企業が抱える課題の解決策を考え、実践するところまで関わります

おもしろい社会人や様々なプロフェッショナルと出会い、学び、社会とつながりながら自分の力を磨くことができる機会を作っています。（宮原さん）



都市情報学部の学生もフル活用！

—都市情報学部の学生がshakeを活用している事例は？

山本：都市情報学部の学生の中には、地域創生やまちづくりに興味のある学生が多い印象です。例えば都市情報学部の学生が立ち上げた「Lプラネット」というまちづくり団体の活動拠点として、shake が活用されていますね。都市情報学部で専門性を学びながら、同じキャンパス内にある shake を拠点にして様々な活動ができるという意味では、shake との相性が良い学部だと思います。

宮原：shake は予約不要で、空いてさえいれば使うことができるので、CBML(※)でもここをプレゼン練習に使っていただきました。プレゼンをして、チームごとで意見交換したりして…。とても良い使い方をしてきているなあと感じながら眺めていました。こういったプレゼン用のプロジェクターや、ディスカッションに活用しやすいホワイトボードがいつでも自由に使えるところって、学内にありそうでないんですね。



教室も勝手には使えないですし。ですので、shake がこうして使ってもらえたことは、とても嬉しかったです。

—学生には shake をどのように活用してほしいですか？

山本：まずは、自分が興味のある分野のセミナーやイベントなどに参加してほしいです。社会の動きって、大学とバイトと家の往復だけではわからないし、なかなか掴めないと思うんです。学部の専門性はもちろん大切ですが、それと同じくらい、個人のスキルや人脈も大切。これからの時代、誰が必要とする課題解決スキルや、コミュニケーションスキルが、こうして外とつながることで磨けると思いますし、そういった機会を私たちがどんどん提供していきたいと考えています。今後は、shake を「プロジェクトを生み出す場」にしていきたいと思い、新たに「MEIJO DRAFT」を企画しています。これは、参加者が「こんなことがやりたい！」と発信し、それに賛同者や賛同するメンターがいれば採択され、プロジェクトを立案できるというもの。自分が発案者になってもいいし、誰かの発案にフォロワーとして入っていてもいいので、プレーヤー発信のプロジェクトがどんどん沸き起こってほしいと期待しています。我々はその仲介役になりながら、学生たちがアクションを起こしやすいような土壌を整えていきたいです。

神宮：今後もセミナーやイベントをチェックして、友人を誘ってどんどん参加したいです！

※ Community Based Machizukuri Learning (P4 参照)

「学生発信のプロジェクトが生まれる場に」

shakeで「う」まれる

未来をつくっていく場にしたい



決められたプロジェクトにただ参加するだけではなく、shake から新しいプロジェクトが生まれるような、そんな場にしていきたいですね。（山本さん）

▲ 参加者発案でプロジェクトが採択されるアクセラレーションプログラム「MEIJO DRAFT」を企画中



社会連携センター 社会連携コーディネーター 宮原知沙さん





Q1

卒業後の進路を教えてください

2019年3月に卒業し、同年10月にスペインへ。バルセロナ大学大学院で、都市デザインを学ぶコースに通っています。授業は全てスペイン語なので理解するだけで大変ですが、授業後に先生とチャットをつないだり、先生にアポを取って訪ねたりして、質問や確認をしています。いろいろな年代・国籍の人が住むシェアハウスで暮らしながら、英語の家庭教師のアルバイトもしています。

自分を信じて、とにかく進むしかない！

「私にしか進めない道」を選んだら

URBAN DESIGN

BARCELONA



Q2

留学のきっかけは？

大学2年までは名城の大学院に進もうと思っていたんですが、友人の「私も大学院にしようかな」という言葉がきっかけで、ふと「私にしか進めない道ってなんだろう」と考えるようになりました。考えた結果、留学という選択肢に行き着き、バルセロナ大学を目指すことに。当時の私はきっと、他人が真似できないような進路に進むことで、私らしさを見出したかったんだと思います。



Q1

就職先はどのように決めた？

大学では、情報処理やITなど、情報化社会の中で役立つ基礎的な知識も学ぶことができて、とても良い経験になりました。ゼミでの活動を通して、調査・考察をする過程がとても楽しいと感じ、卒論では商店街の活性化計画についてまとめました。「地域の問題点を洗い出し、自分の切り口で発信する」ことができる地元のマスメディアで働きたいと考え、ケーブルテレビ局を志望しました。

Q2

現在の仕事内容は？

弊社は、岐阜県岐阜市のケーブルテレビ局です。私は、自社が運営するコミュニティチャンネルで、地域ニュース番組を担当しています。ニュースキャスターやレポーターなどのアナウンス業務もしますが、番組ディレクターとして企画を練ったり、取材へ行ってカメラマンとして映像や音声を撮ったり、編集したり…と、業務内容は多岐にわたります。

Q3

大学院ではどんなことを学んでいますか？

座学の授業はとても少なく、ほとんどが課外授業。日本の大学と比べて「外に出るのが当たり前」という風潮なのかな、私はそれがとても気に入っています。街を歩いて実際に街並みや建物を見ながら、先生の解説を聞きます。お昼になったら、そのままみんなで食事したりして。外に出るのはとても楽しいですし、座学だけよりも記憶に残りやすく、理解も深まっていると感じます。

#1 神谷 佐菜 さん

2018年度卒 / 海道ゼミナール
バルセロナ大学 大学院

STUDY ABROAD

Q5

今後の夢や展望、卒業後の進路は？

まだ決まっていませんが、大学院で平均80点以上の成績が取れたら、日本の奨学金に申し込んで博士まで取りたいです。自分のルーツでもあるペルーの発展に貢献すべく、ペルーで就職するのもいいし、大学院で学んだことを活かして、バルセロナの都市デザインをまとめた本を書くのも夢。いずれにしても私が目指すのは「自分にしか進めない道」。じっくり学びながら、私だけの道を見つけていきたいです！



卒業生の今

Voice of Meijo OB/OG

#2 浅野 李佳 さん

2014年度卒 / 福島ゼミナール
シーシーエヌ株式会社 メディア推進部

Q3

仕事でやりがいを感じることは？

民放局とは違いケーブルテレビ局では、一人で全てを担当します。今はニュース班に所属しているので、企画を練るところからはじまり、カメラを担いで現地へ行って取材・撮影をして、帰ってきてから原稿を書いて、映像を編集。キャスターとして読むこともあります。いろいろな知識や技術が必要なので大変ですが、番組づくりの全ての工程に関われるので、とてもやりがいを感じています。

Q4

今、力を入れていることは？

弊社は「地域に役立つ情報を届けたい」という思いで、現在、災害報道に取り組んでいます。平成30年7月豪雨では、豪雨が続き、川の状況や避難所情報などを随時放送したり、毎日のように現地へ取材へ出向き、ボランティアの要請やライフラインの状況などを報道しました。後日、視聴者の方に「災害が起きたらCCNを見るようになった」と言われ、とても嬉しかったです。



NEWS IS LIFELINE

Q5

今後の夢や展望、目標は？

今、私は「地域の情報を吸い上げ、調査し、問題点を提起する」という地域ジャーナリズムに取り組んでいます。近年、災害報道に取り組むなど、市民のみならず、なくてはならない存在になれるよう、これからもいろいろなことに挑戦し、スキルアップをしていきたいです。そして、シーシーエヌが「地元なくてはならない会社」になれるよう、がんばりたいと思います。

地域を編集し、発信し続けることで
市民にとって必要な存在になりたい。

Q4

都市情報学部で学んだことで
活きていることは？

現在は主に、街灯や歩道・車道のデザインや、街中にある芸術、環境心理学、18世紀の建物のファサードのデザインの違いなど、都市情報学部では勉強していないことばかり学んでいます。でも、大学で地域計画や都市デザインなどを学べたことで、他のクラスメートとは違う視点から意見を言えたり、異なるアプローチで分析方法の提案ができているのではないかと思います。

名城生だから知っておきたい！

矢田MAP

毎日通っているのに意外と知られていない矢田地区。知らずに卒業するのはもったいない！と思い、魅力的なスポットを探してまちを歩いてみました。そこで見つけた美味しい食べ物や、ちょっと変わった面白スポットと一緒に、矢田地区の避難場所や防災スポットをシェアします！

知る人ぞ知る名店！もち豚を使ったボリューム満点のとんかつにお屋は行列ができることも。。一度は食べたい矢田の味！



イケメン店主の田辺さん！



矢田かつ
ランチ 11:30 ~ 14:00
ディナー 17:30 ~ 21:00 (L.O.20:30)
定休日 月曜日
名古屋市東区矢田 2-5-18
tel 052-711-7797
https://yadakatsu.com/@yada_katsu

定番の味噌とんかつ定食！
みそが絶品！

ピンクの花の木が目印の可愛らしいお菓子屋さん。ナゴヤドームをイメージしたシュークリームはメロンパンみたいにサクサクな生地と濃厚なクリームの相性抜群！



プチフーズ大曽根店
ケーキ販売 9:00 ~ 19:30
喫茶 9:00 ~ 18:30
モーニング 9:00 ~ 11:00
年中無休
名古屋市東区矢田 1-3-25
tel 052-711-8884
http://www.petit-fraise.jp/ozone.html



星野くん (4年)

僕はゼミで防災について学んできました。矢田地区では、避難所一泊体験や矢田防災祭りなど、様々な活動が行われ、防災に力を入れています！最近台風や地震の被害を身近に感じるが増えました。みんなは大学にいる時に災害がおこった場合の避難場所は矢田小学校って知っていましたか？今回は、名城生の防災力アップのために、矢田MAPと一緒に防災情報をシェアします。今すぐできる対策もチェックです！

今すぐできる// ナゴヤドーム前キャンパスでの災害対策

その1

キャンパスの一時避難所は正門と中庭！



その2



講義室に貼ってある避難経路を確認！

その3

「Yahoo!防災速報」と「名城大学安否確認システム」のアプリをDLして情報をいち早くゲット！



その4

自宅に警報が出ていても、名古屋市に出ていなければ講義はあるので要注意！

世界のボードゲームで遊べるカフェ。スイーツは毎日手作りしているので、行くたびにメニューが変わり通いたくなりそう！



のんびりカフェ
10:00 ~ 17:00
定休日 月・火・水曜日
名古屋市東区矢田 4-2-8
tel 090-9336-6468
https://nonbiricafe.shopinfo.jp/@qookan_mama

文房具好きにはたまらない万年筆専門店。普通の文具屋さんにはない多種多様な品揃え。プレゼント選びにいかがですか？

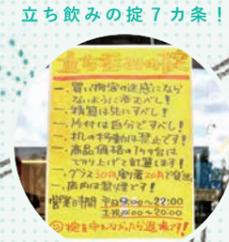


三光堂
平日 11:00 ~ 20:00
土日祝 10:00 ~ 20:00
定休日 火曜日
名古屋市東区矢田 5-1-17
tel 052-722-3510
http://www.sankodo-web.co.jp/@sankodo_penshop



村越さん (2年)

アットホームな立ち飲み酒場。種類豊富なお酒とおつまみをその場で買ったのしめちゃう！



みのや北村酒店
平日 8:00 ~ 22:00
土祝 8:00 ~ 20:00
定休日 日曜日
名古屋市東区矢田 1-5-33
tel 052-722-0308

樽から蛇口でお酒がつげる！

週に2日しか開いていないこだわりのパン屋さん！天然酵母、国産小麦を使用した体に優しいパンは、早ければ2時間でなくなることも。



BAKERY67
11:00 ~ 売り切れ次第終了
営業日 金・土曜日
名古屋市東区大幸 1-4-27
tel 052-711-6789
@bakery_67

一時的な避難場所。車両・資機材などの提供！

救急車や消防車が通れないほど極端に道が狭い道！

ナゴヤドーム前矢田駅

八神建築

AED・消化器・ジャッキパール等の工具提供！

矢田小学校

キャンパスから一番近い指定避難場所

矢田コミュニティセンター

名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス

1. 北館1階インフォメーション前
2. 東館1階保健室(土日祝は閉室)
3. 東館3階体育館入口
4. 西館エントランスホール
5. 南館DS101前

キャンパス内のAED設置場所！

まち歩きをサポートして下さった矢田のヌシのお二人！一緒にいるとたくさんの地元の方が集まってくる人気者！

- (左) 矢田学区防災安心まちづくり委員会会長 梅本哲男さん
- (右) 三光堂店主 永井誠さん



父母懇談会レポート

スケジュール

【第1部】

- ・加藤 和昭 後援会長 挨拶
- ・鎌田 繁則 学部長 挨拶
- ・特別講演会 講師：宮本 延春氏
『親として願うこと、子として望むもの』

【第2部】全体会

- ・教務関係概略説明
- ・学生活動関係概略説明
- ・就職関係概略説明
- ・就職活動について（4年：船橋 裕也さん）
- ・大学院概略説明
- ・院生の研究活動について（修士課程1年：野々山大樹さん）

【第3部】個別懇談

父母懇談会とはご父母と学部教職員が集い、学部教育の概略説明、質疑応答、教員による個別面談を実施する都市情報学部後援会主催の行事です。本年度は8月24日(土)に開催し、119組177名のご父母のご参加がございました。

午前中の第1部は宮本延春氏をお迎えして特別講演会を行いました。宮本氏はいじめが原因で学校嫌いとなり中学校の成績はオール1。中学卒業後見習い大工となり、23歳の時に物理学に興味を持ったのを機に24歳で夜間定時制高校に入学、27歳で大学院に進み、その後母校で教鞭を取り、現在は講演、執筆活動を通して、前向きに生きる言葉を発信し続けています。人はどの年代でも多かれ少なかれ問題を抱えています。迷ったり、つまずいたりした時、宮本氏が語られた言葉が力になればと思います。

第2部では、ご子女が大学生活を送るうえで必要な情報をご父母も共有していただけるよう、教務・学生活動・就職・大学院の各担当教員から概略説明をしていただきました。実際に就職活動を経て内定をもらった4年生の船橋さんからは苦労話や内定獲得の秘訣を語っていただき、大学院で研究活動中の修士1年の野々山さんからはご父母がなかなか知ることがない大学院生の研究生の実態を聞かせてもらいました。第2部の説明を受け、第3部の個別懇談では資料を見ながら直接教員とご子女の出席の確認や成績の相談をしていただきました。

毎年8月の下旬に行うこの父母懇談会は、教職員とご父母が直接お話をしていただけると数少ない機会でございますので是非ご参加ください。



後援会の皆様からの貴重な声をまとめました。

ご協力いただいた後援会の皆様（敬称略）

会長： 加藤 和昭 役員： 須藤 恭正 杉浦 桂次
副会長： 岡島 司 星野 恵司 瀧 慎太郎
 駒木 賢二 青木 利憲
会計監査： 杉尾 公平 田中 昌二
 水谷 光晴 伊藤 謙一

Q1

都市情報学部の良いところは？

先生方の専門分野が幅広く、理系も文系も学べる

社会の仕組みや問題を解決する能力が身につくことが素晴らしいです

知識を入れるだけでなく、「どう使いこなすか」を学べる環境が魅力的です

キャリアアップのためのサポートが充実しているので、就職先を含め、しっかり考える時間と環境があること

Q2

今年度の活動で印象的なことは？

CBMLは、学生たちにとって、とても良い経験になったと思います

都市情報学部の就職率100%！

CBMLで、実際に自治体と一緒に、リアルな課題を解決していく実践的な学びができ、社会に出てこうした経験が活きてくると思います

池上彰教授の講演が印象に残っています。講演の司会を務めたのが学生と知り、驚きました！

Q3

これからの名城大学・都市情報学部へ期待すること

施設・設備の充実はとても羨ましい限りです。こうした大学のうつつを、宝物としてではなく、より多くの学生たちが「武器として」使いこなせていける環境が育っていくことを期待しています

素晴らしい大学だと思います。前を向きながら、現状を維持してほしいです

今後も、学生の自主性を伸ばし続けてほしいです

多くのご意見ありがとうございました。今後の運営に活かしていきますので、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

都市情報学部 後援会補助制度のご案内

資格試験等受験料補助制度について

都市情報学部後援会（在学生父母等の会）は、より多くの都市情報学部生の皆さんが資格取得を目指して各種検定試験にチャレンジすることや、資格取得が自信となって就職活動・キャリアアップに繋げることを期待し、各種資格試験等受験料の全額または一部を補助することで支援いたします。

補助内容および支給方法

- (1) 各種資格試験等を受験した場合、申請に基づき、一人につき、同年度内に2回まで受験料の全額または一部を補助いたします。
- (2) 受験料補助の対象となる資格試験等は行政書士、宅地建物取引士、等、範囲がありますので学部事務までお問い合わせください。
- (3) 2回の補助額合計は、8,000円を超えないものとします。なお、2回目の申請は、上限までの残額が1,000円以上とします。
- (4) 補助金の支給は、補助申請月の翌末日までに、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

申請要件（資格）

- (1) 名城大学都市情報学部在籍（休学中でも申請可）し、かつ都市情報学部後援会に入会していること。
- (2) 都市情報学部後援会が補助対象に指定した資格試験等（※）を受験し、実際に受験しことを証明する資料（写し可）が提示できること。ただし、合否等は問いません。

※対象の資格試験については都市情報学部事務室へお問い合わせください。

申請方法および申請期間

- (1) 補助希望者は、後援会指定の申請書類等を添えて期間内に申請してください。
- (2) 申請期間は、原則として、受験月から翌々月末日までといたします。ただし、3月中の申請分は、補助金支給が4月になりますので翌年度分の補助として取り扱います。そのため、4年次学生による申請は2月末までとなりますが、この場合の補助金支給は、卒業日まで完了いたします。

申請書類

- (1) 資格試験受験料補助申請書
- (2) 銀行口座振込依頼書 ※通帳（写し）添付
- (3) 受験料領収書（原本のみ）または振込明細書（原本のみ）
- (4) 受験したことを証明する資料（写し可）※例えば合否通知など

都市情報学部後援会『TOEIC-IP』試験受験料補助制度について

都市情報学部後援会（在学生父母等の会）は、名城大学 都市情報学部の学生の皆さんが、実践的な英語能力に自ら磨きをかけて頂くきっかけとすることや、受験料に対する経済的支援を目的として、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで実施される『TOEIC-IP』試験の受験料を補助いたします。

補助内容および支給方法

- (1) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにおいて、今年度回実施される『TOEIC-IP』試験の受験料補助として、申請に基づき、1年度につき1人1回のみ受験料を全額補助いたします。
- (2) 補助金の支給は、補助申請月の翌末日までに、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

申請要件（資格）

- (1) 名城大学都市情報学部在籍（休学中でも申請可）し、かつ都市情報学部後援会に入会していること。
- (2) 今年度ドーム前Cで実施された『TOEIC-IP』試験を受験した者。

申請方法および申請期間

- (1) 補助希望者は、後援会指定の申請書類等を添えて期間内に申請してください。（申請期間はお問い合わせください）

申請書類

- (1) 学内『TOEIC-IP』試験受験料補助申請書
- (2) 銀行口座振込依頼書 ※通帳（写し）添付
- (3) 振込明細書（原本のみ）
- (4) 『TOEIC-IP』試験スコアレポートの写し

エクステンション講座受講料補助制度について

都市情報学部後援会（在学生父母等の会）は、名城大学都市情報学部が重点課題に掲げる「学部学生の人材高度化支援」に呼応し、本学エクステンション講座を利用する都市情報学部生の皆さんを、対象講座の受講料の一部を補助することで支援します。

補助内容および支給方法

- (1) 後援会が指定するエクステンション講座を受講した場合、申請に基づき、一人につき、1講座分の受講料の一部を補助いたします。
- (2) 補助の対象となる講座・補助額は次のとおりです。
※受講料は2019年のもの

補助対象講座名	受講料（後援会補助金額）
公務員 国家一般職・地方上級（行政職）コース	88,000円（8,000円）
公務員 市町村・警察・消防コース	53,000円（8,000円）
公務員基礎 通年コース（2年生対象）	50,000円（5,000円）
公務員入門コース（1年生対象）	12,000円（2,000円）
SPI 試験対策講座	10,000円（3,000円）

- (3) 補助金の支給は、本学エクステンションセンターに受講料の全額が納入された後、学生本人または学資負担者名義の口座振込で行います。なお、予め納入受講料額から補助金額を差し引くことはできません。
- (4) 補助金の支給期日は、補助申請月の翌末日まで（3月は卒業式日まで）に完了する予定です。

申請要件（資格）

- (1) 名城大学都市情報学部在籍（休学中でも申請可）し、かつ都市情報学部後援会に入会していること。
- (2) 都市情報学部後援会が補助対象に指定した講座を受講して、全日程が終了した後に当該講座の出席率が7割以上であったことが確認できること。なお、ナゴヤドーム前キャンパス事務室内のキャリア支援窓口で各講座の出欠状況が確認できます。各自で申請前にお問い合わせのうえ、必ず申請要件を満たしていることを確認してください。

申請方法および申請期間

- (1) 補助希望者は、後援会指定の申請書類等を添えて期間内に申請してください。
- (2) 申請期間は、当該講座の最終開講日の14日前から3月中旬までといたします。
- (3) 当該申請は、都市情報学部後援会が実施するその他補助制度への申請を妨げるものではありません。

申請書類

- (1) エクステンション講座受講料補助申請書
- (2) 銀行口座振込依頼書 ※通帳コピー添付

問い合わせ・申請書類の提出先

〒461-8534 名古屋市東区矢田南四丁目102番9
名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス
都市情報学部事務室内 都市情報学部後援会事務局

キャリアセンター

ナゴヤドーム前キャンパス
就職支援窓口



名城大学就職支援の特徴

1～4年次の個別指導担当制

1年次から内定を得るまでの4年間にわたり進路・就職相談ができる体制をとっています。学生の悩み・就職意識も千差万別で、個別指導・相談体制は非常に重要なものとなっています。

1・2年次対象の進路支援講座

早期のキャリア観醸成を目的に「キャリアガイダンス」を開催し、「働く」と「人生」を“線”で捉え、有意義な学生生活の過ごし方について考えるきっかけを提供。2019年度から、業界・企業の第一線で活躍するビジネスマンからキャリア観を聞く機会として「人間図鑑」を実施。「業界研究セミナー」とセットで社会や企業と触れる機会を数多く提供しています。

インターンシップ支援

大学に在学しながら企業等の就業体験ができ、就職活動前に勤労観・職業観・社会観を養うための支援です。大学経由のインターンシップに限らず、短期インターンシップへの応募方法や選考突破セミナーなど、就活で外せないインターンシップ支援も充実しています。

3・4年次対象の就職支援行事

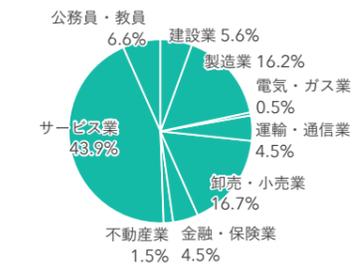
「就職ガイダンス」からスタートし、「個人面談」を主軸に、各種講座やセミナーなど多彩な行事を開催。「企業研究セミナー」は750社以上が参加する東海地区最大級のもので、就職支援の大きな柱となっています。また、就職先が決定した4年次および本学卒業生が体験を通じて後輩にアドバイス協力する「就職アドバイザー制度」や、エアライン業界への就職をサポートする【M-CAP】などを含め多彩な学生支援プログラムを実施し、就職活動のさらなる充実に向け支援を続けています。

実就職率 (%) 卒業生から大学院進学者を除いた者に対する就職者の割合



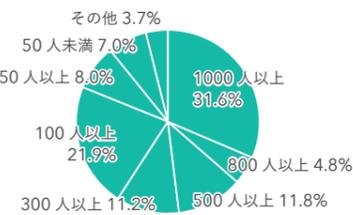
就職以外の者は16名おり、4名が大学院進学、1名が大学進学です。それ以外の11名(昨年5名)はアルバイト等で、昨年に引き続き、高水準を維持している。

業種別就職状況



昨年と比較し、製造業が7.9増、公務員・教員が2.1増、卸売・小売業が0.8増、電気・ガスが0.5増になり、運輸・通信業が4.4減、不動産業が3.0減、サービス業が2.6減、金融・保険業が1.2減、建設業が0.1減であった。

従業員数別就職状況



500人以上の大企業への就職が昨年から11.4の減少。東海に本社を置く企業への就職者の割合が昨年に比べ10.1上昇、関東に本社を置く企業が7.3減少と、強い地元志向が影響していると思われる。

主な就職先50社 (2019年4月入社)

アイシン・エイ・ダブリュ	キャノンITソリューションズ	システムリサーチ	豊田鉄工	パナソニックシステムソリューションズジャパン
愛知銀行	清須市役所	Sky	豊橋市役所	富士ソフト
愛知県警察本部	近畿日本ツーリスト中部	瀬戸信用金庫	トランスコスモス	フジパングroup本社
愛知県庁(警察職員)	クロスプラス	セブン-イレブン・ジャパン	名古屋鉄道	碧海信用金庫
一宮市役所	警視庁	中部テレコミュニケーション	名古屋トヨペット	防衛省 自衛隊
いなべ市役所	KTX	THK	日本車輛製造	三重県商工会連合会
井村屋グループ	山九	東海労働金庫	日本赤十字社本社	三井住友トラスト不動産
インテック	ジェイアール東海情報システム	豊川市役所	日本年金機構	三菱電機メカトロニクスソフトウェア
NTTビジネスソリューションズ	JA愛知厚生連	トヨタシステムズ	ネオキャリア	ユニー
大垣共立銀行	JAあいち中央	トヨタ情報システム愛知	パナソニック ITS	リンナイ

2020年3月卒の就職動向 (2019年5月末現在)

- インターンシップからの早期選考が常態化。GW前に内々定相次ぐ
- 2020年3月卒(20卒)の本学学生にアンケートを実施したところ、「インターンシップに参加した」と回答した学生は、文系学部で約7割、理工学部では約8割になりました。現在の就活スケジュールになった17年3月卒と比較すると、インターンシップ参加者と未参加者の割合が逆転する結果になりました。
- 採用側も3月からの短期決戦にらみ、インターンシップから学生と接点を持つと、実施率は年々上昇。20卒では約75%(*)の企業が実施している調査結果が出ています。また参加学生には、限定セミナーや早期選考の案内など、参加後のアプローチがあり、就活の早期化に拍車をかけています。今年は特に、この早期選考の流れとGWが10連休だったことから、GW前の内々定出しが相次ぎました。
- ※ディスコ「2020年卒特別調査 インターンシップに関する調査」2019年4月
- 内々定企業の顔触れが多様化
- ドイツやアメリカの外資系企業、文系や農学部からIT関連、これまで採用実績がなかった企業など、内々定報告の企業の顔触れが多様になってきました。採用側の多様な人材を求める姿勢と共に、学生たち自身も視野を広く持ち、積極的にチャレンジしている証だと思えます。
- 「売り手市場」でも厳選採用
- 20卒の全国大卒求人倍率は1.83倍(*)と「売り手市場」が続いていますが、8年ぶりに前年(19卒:1.88倍)から低下に転じました。中小企業などが人材確保に苦勞する中、新卒に限らず、活況な中途採用市場から人材を確保しようという動きがあり、それらが新卒の求人倍率に影響したと思われる。企業側は新卒・中途を問わず優秀な人材を採用したい意向が出ている一方、学生たちの一部は「売り手市場」という言葉で就活を楽観的にとらえ、今になって苦勞している学生の相談が増えてきました。
- ※リクルートワークス研究所「大卒求人倍率調査」2019年4月24日

1995年4月に岐阜県可児市で誕生した都市情報学部は今年度創立25周年を迎えました。この間、2017年4月に可児キャンパスからナゴヤドーム前キャンパスに移転するなど大きな変化も経験しましたが、毎年確実に素晴らしい伝統を積み重ねてきたと言っても良いでしょう。これも一重に後援会を始めとする関係者の方々のご尽力の賜物だと感謝しております。

さて、この1年を振り返ってみますと、創立25周年を記念する出版物『都市情報学入門』(創成社2020年3月刊行予定)の執筆に大部分の教員が携わる一方、次年度から始まる大学院都市情報学研究科の新カリキュラムに向けた準備、第3期認証評価に備えた学部自己評価制度の運用開始等々、例年以上に多忙な年になりました。

こうした中、本学部新1年生全員がTOEIC IP試験を受験する制度は2年目を迎え、同じく2年目を迎えた学部学生のための自主研究会は、昨年度の『スーパーメガリージョン』から本年度は学びのコミュニティ創出支援事業に正式に認定され、『CBML(コミュニティ・ベースド・まちづくり・ラーニング)』へと発展致しました。舞台となった美濃

加茂市には1・2年生70名以上の学生が訪れ、同市が抱える現実の課題10題の解決策を提案せよというお題を頂きました。その後、約半年に渡るフィールド調査や合宿を経て、11月には副市長や市議、市職員、一般市民の前で研究成果を発表し、高い評価を頂きました。

こうした一連の課外活動や課外学習の下で、本学部では今後とも「学部学生人材高度化支援」と銘打って、やる気のある学生により多くの自己啓発のチャンスを提供する取り組みを続けて参る所存です。

最後に、本年度末をもちまして岡林繁教授と海道清信教授が定年退職を迎えられます。お二人とも創立以来のメンバーで、本学部での25年間にわたる教育・研究・社会活動等で多大な貢献をして頂いて参りました。この場をお借りしまして、お二人には深く感謝申し上げますと同時に、今後とも引き続き大所高所からご指導頂ければと存じます。

残された我々教職員一同は、ご父兄ご父母の皆様と力を合わせ、次の四半世紀での更なる飛躍に向けて改めて気を引き締めて参りたいと思います。皆様方に於かれましてはこれまで以上のご厚情と叱咤激励を頂きたいと思えます。

2020年2月
名城大学 都市情報学部 学部長

鎌田繁則

学部の窓 No.25 | Faculty News 2020

発行日:2020年3月20日
編集・発行:名城大学 都市情報学部 後援会
編集委員会 委員長:手嶋 正章
委員:海道 清信 小池 聡 森杉 雅史

都市情報学部の「学部の窓」とは

光や風を取り入れたり、景色を眺めたりする「窓」。窓には、こちら側とむこう側をつなぐ役割があると思います。この「学部の窓」は、都市情報学部とのさまざまな「つながり」を共有します。この一冊を通して、地域や社会とのつながり、先生や卒業生、後援会の方々とのつながりを感じてもらえたら嬉しく思います。

